



CloudSystemテンプレート 1st Model 導入手順書

目次

I. 1stモデル概要

1. はじめに
2. AWSサービス関連図
3. ユーザー一覧
4. ロール一覧

II. 1stモデル導入手順

1. 導入準備
2. 1stモデル導入ファイルダウンロード
3. 1stモデル導入ファイルインポート
4. 機器一覧のログイン情報変更
5. プロキシ情報の登録
6. API実行ユーザーのPW変更
7. AWS環境設定

III. システム構築・更新手順

1. はじめに
2. AWS管理者基盤
3. AWS管理者
4. インフラユーザー基盤
5. インフラ管理者
6. インフラメンバー
7. CloudFormationロール
8. オートスケールWebシステム
9. セキュリティ付帯機能
10. WebサーバへPlaybook実行

IV. システム削除手順

1. はじめに
2. セキュリティ付帯機能
3. オートスケールWebシステム
4. CloudFormationロール
5. インフラメンバー
6. インフラ管理者
7. インフラユーザー基盤
8. AWS管理者
9. AWS管理者基盤

V. Conductor

1. はじめに
2. Conductorクラス一覧

I .1stモデル概要

I .1stモデル概要 / 1. はじめに

CloudSystemテンプレート 1stモデルとは

- CloudSystemテンプレート(以降はCSテンプレート)シリーズの一つ。
- CSテンプレートはExastro IT Automationのパッケージの総称で、CSテンプレートをITAに導入することで、容易にITAから各システムを自動構築をするために作成されている。
- 1stモデルでは、AWSクラウド上にセキュリティ付帯機能を持ったオートスケール型Webサーバの自動構築/管理を実施する。

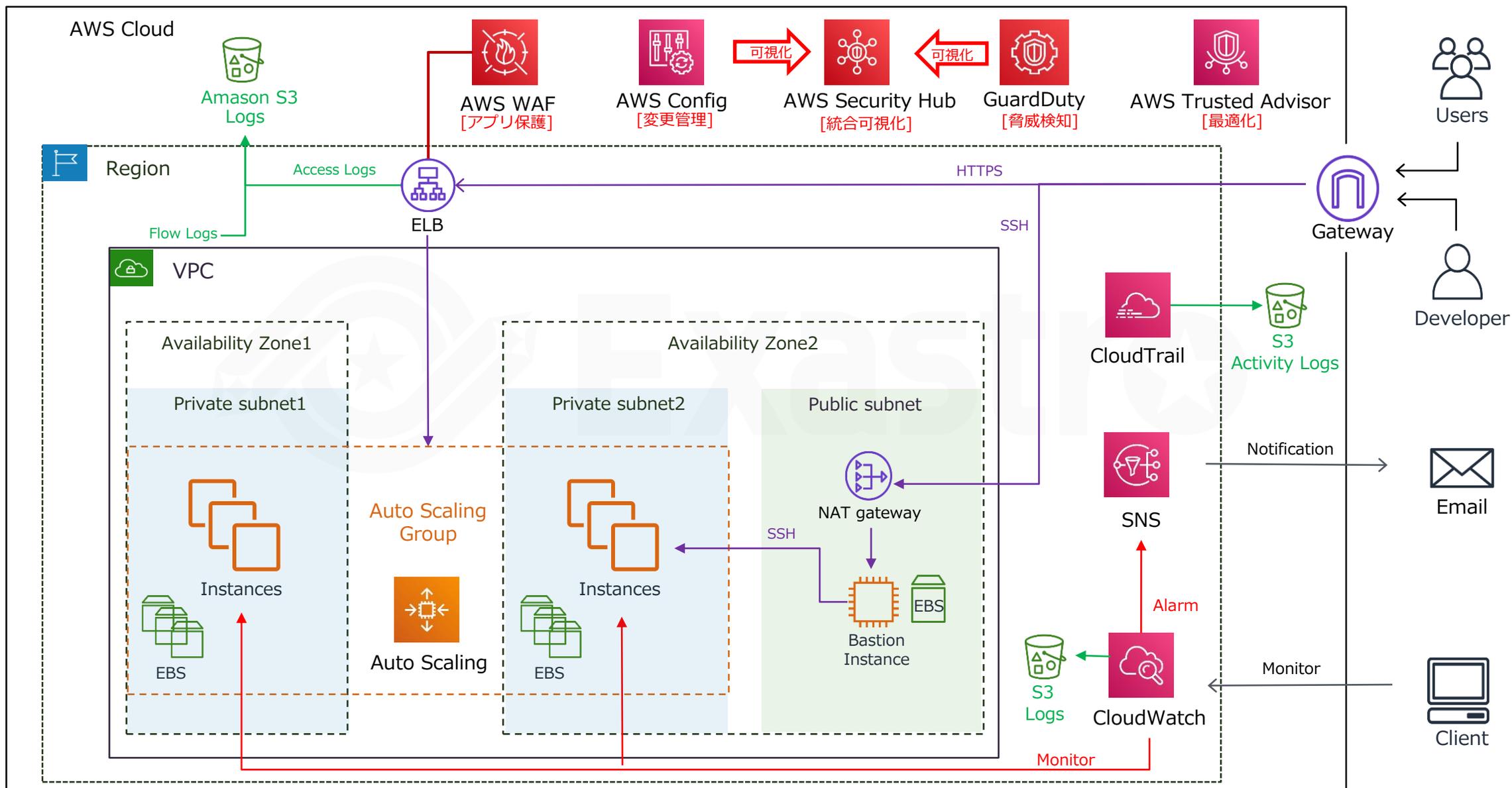
1stモデルの特徴

- オートスケールWebシステムでは踏み台サーバ、ログ取得、通知機能、モニタリング等の機能を備えている。
- さらにセキュリティ付帯機能を構築することで、AWSアカウントの変更管理(AWS Config)、セキュリティ事項の可視化(AWS SecurityHub)などが使用できる。
- 構築したWebサーバに対して、Exastro ITAからAnsible Playbookを実行することでアプリケーションを管理する。
- Exastro ITAからConductor(V.Conductor)を実行することで、必要なユーザーを自動作成/管理する。

AWSサービス関連図

- 次スライドで「オートスケールWebシステム」「セキュリティ付帯機能」において構築するAWSの各サービスの一覧図を示す。IAMユーザー、IAMロールは記載対象外。

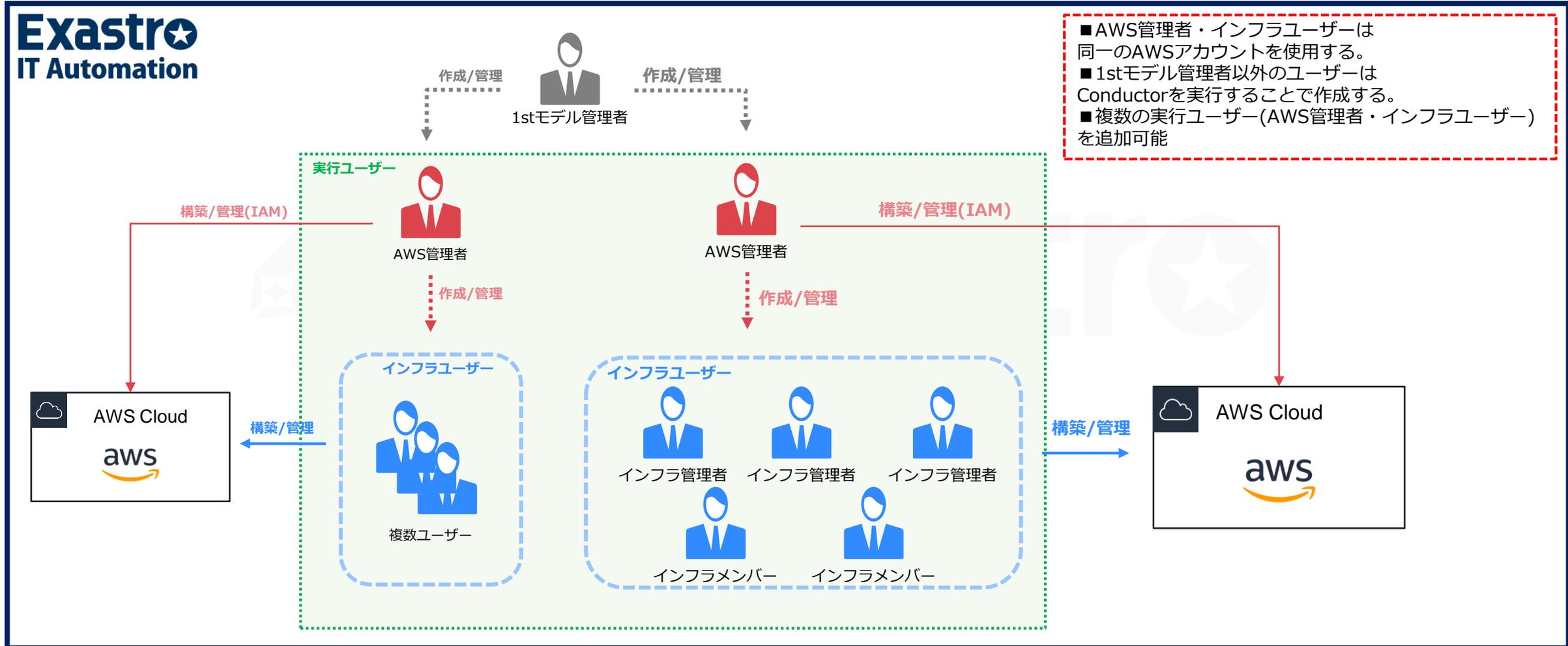
I .1stモデル概要 / 2. AWSサービス一覧図



I .1stモデル概要 / 3.ユーザー一覧(1/3)

概要

- 1stモデルで使用するユーザー構成の例を以下に示す。



(各ユーザーの権限の詳細は次スライドに記載)

I .1stモデル概要 / 3.ユーザー一覧(2/3)

初期ユーザー一覧

- 1stモデルのインポート直後のユーザー(初期ユーザー)の一覧を以下に示す。
- 「1stモデル管理者」は1stモデル内での管理者としての権限を持つ。
- ユーザー名、ログインIDは変更可能。
- 初回ログインPWは"password"

初期ユーザー一覧

ITA		想定業務
ユーザー名	ログインID	
1stモデル管理者	1st-admin	<ul style="list-style-type: none">・ 1stモデルの初期設定・ 1stモデル全般に関する設定を変更・ AWS管理者の作成
1stモデルAPIユーザー	1st-model-api	API実行のみ

I .1stモデル概要 / 3.ユーザー一覧(3/3)

■ 実行ユーザー一覧

- 実行ユーザーは「AWS管理者」「インフラ管理者」「インフラメンバー」を指す。
- 以下のユーザーは、Conductorを実行することでITAとAWSに作成する。(参考:「V.Conductor / 2.クラス一覧」)
- ユーザー名、ログインID、IAMユーザー名は変更可能。(「ユーザーリスト管理」の各メニューで変更)
- ITAユーザーの初回ログインPW: “password”, IAMユーザーの初回ログインPW: “Password!”

実行ユーザー一覧

ITA		AWS	想定業務
ユーザー名	ログインID	IAMユーザー名	
AWS管理者	1st-aws-admin	1st-aws-admin	・ AWS環境の管理 ・ インフラユーザーの管理 ・ IAMロールの管理
AWS管理者/サブ	1st-aws-admin-sub	1st-aws-admin-sub	同上
インフラ管理者	1st-infra-admin	1st-infra-admin	・ オートスケールWebシステムの構築/管理 ・ セキュリティ付帯機能の構築/管理 ・ WebサーバにPlaybook実行
インフラ管理者/サブ	1st-infra-admin-sub	1st-infra-admin-sub	同上
インフラメンバー	1st-infra-member	1st-infra-member	・ システムのモニタリング
インフラメンバー/サブ	1st-infra-member-sub	1st-infra-member-sub	同上

I .1stモデル概要 / 4.ロール一覧

ロール一覧

- 1stモデルに初期登録されているロールの一覧を示す。
- ロール名、紐付ユーザー名は変更可能。

ロール一覧

ロール名	紐付ユーザー名	権限概要
1stモデル管理者ロール	1st-admin	<ul style="list-style-type: none">・ 1stモデルの全体に関する設定変更権限・ AWS管理者作成に必要な操作権限
1stモデルAPIロール	1st-model-api	以下メニューの操作権限 「機器一覧」 「ホストグループ一覧」 「ホスト紐付管理」 「Webサーバ」
AWS管理者ロール	1st-aws-admin 1st-aws-admin-sub	<ul style="list-style-type: none">・ インフラユーザー作成に必要なメニューの操作権限・ Conductor実行
インフラ管理者特権ロール	1st-infra-admin	<ul style="list-style-type: none">・ プレイブック編集・ テンプレートファイル編集・ メニュー作成
インフラ管理者ロール	1st-infra-admin 1st-infra-admin-sub	<ul style="list-style-type: none">・ パラメータ管理・ Conductor実行
インフラメンバーロール	1st-infra-member 1st-infra-member-sub	<ul style="list-style-type: none">・ 各メニューの閲覧権限

Ⅱ .1stモデル導入手順

Ⅱ .1stモデル導入手順 / 1.導入準備(1/2)

● 導入サーバの準備

ITAをインストールするサーバ(物理/仮想)を用意します。

サーバ動作要件は以下のドキュメントの [4頁 システム要件] を参照ください。

また本サーバはAWSと接続(http/https)できる環境を用意してください。

https://exastro-suite.github.io/it-automation-docs/documents_ja.html [ITA システム構成/環境構築ガイド 基本編]

● ITAをインストール

- ・ ITAバージョンは1.7.1をインストールしてください。
- ・ インストール手順は以下ドキュメントを参照ください。

https://exastro-suite.github.io/it-automation-docs/learn_ja.html [Exastro IT Automation を導入しよう]

Ⅱ .1stモデル導入手順 / 1.導入準備(2/2)

●AWS環境の準備

- 「1stモデル管理者」が使用するAWSアカウントを用意する。
- 「1stモデル管理者」として使用するIAMユーザーを準備する。
- 上記のIAMユーザーにCloudFormationFullAccess, IAMFullAccess権限を付与する。
- 上記IAMユーザーの「アクセスキーID」「シークレットキー」を作成して保管しておく。(後ほどITAに登録)

【参考】

● IAMユーザーの認証情報の作成手順概要

- AWSマネジメントコンソールにて実施)
- IAM > ユーザー > 「IAMユーザー準備」で用意したユーザー名を押下
- 認証情報 > アクセスキーIDを作成を押下
- アクセスキーIDとシークレットアクセスキーを取得する。



Ⅱ .1stモデル導入手順 / 2.1stモデルのダウンロード

- 以下URLから1stモデル導入ファイルをダウンロードしてください。

URL : <https://github.com/exastro-suite/Settings-CloudSystemTemplate-1st/releases>

ファイル名 : [cloud-system-template-aws-ce-1.1.1-exastro-1.7.1.kym](#)



Ⅱ .1stモデル導入手順 / 3.1stモデルのインポート(1/3)

- Exastro ITAに「**administrator**」でログインする。
- メニューグループ「エクスポート/インポート」 > メニュー「メニューインポート」に移動する。
- 「ファイルを選択」を押下する。
- 1stモデル導入ファイル（ cloud-system-template-1st-model-exastro-1.7.1.kym）を選択してアップロードボタンを押下する。

メインメニュー



メニューインポート



Ⅱ .1stモデル導入手順 / 3.1stモデルのインポート(2/3)

- ダウンロードしたファイルをアップロードする。
- 「すべてのメニュー」にチェックが入っていることを確認する。
- 画面最下部の「インポート」ボタンを押下する。

メニューインポート

説明

アップロード

ファイルを選択 | 選択されていません

アップロード

インポート

モード 環境情報 時刻指定

廃止情報 廃止をなく 廃止を除く

すべてのメニュー

基盤/シナリオ

AWS管理者基盤シナリオ インフラユーザ基盤シナリオ

ユーザー/シナリオ

AWS管理者シナリオ インフラ管理者シナリオ

システム/シナリオ

CloudFormationロール オートスケーリングWebシステム

TrustedAdvisor/パラメータ Cloudwatch/パラメータ

Config/パラメータ GuardDuty/パラメータ

ホストグループ管理

ホストグループ一覧 ホストグループ親子紐付

Ansible共通

Ansible Towerホスト一覧 グローバル変数管理

収集インターフェース情報 収集項目値管理

Ansible-Legacy

Movement一覧 Playbook素材集

Movement変数紐付管理 代入値自動登録設定

Ansible-LegacyRole

ロール名管理 ロール変数名管理

Movement-ロール紐付 変数名一覧

代入値自動登録設定 作業対象ホスト

変数具体値管理 多段変数メンバー管理

Conductor

Conductorクラス一覧 Conductor紐付Node一覧

インポート

Ⅱ .1stモデル導入手順 / 3.1stモデルのインポート(3/3)

- 「エクスポート/インポート」 > 「エクスポート/インポート管理」 > 「フィルタ」を押下する。
- 数分後、再度フィルタを実行し、ステータスが「完了」と表示されていることを確認する。(所要時間は環境によって異なる)

エクスポート/インポート管理

履歴	実行No.	ステータス	処理種別	モード	廃止情報	指定時刻	ファイル名	最終更新日時	最終更新者
履歴	100,019	完了	インポート	環境移行	廃止を含む		100019 cloud-system-template-1st-model-exastro-1.7.0.ky	2021/05/06 17:21:40	データポータビリティプロシージャ

フィルタ結果件数: 1

- インポートが完了した後、ユーザーID「1st-admin」パスワード「password」でログインしなおす。
(初回ログイン時はパスワード変更画面に遷移するのでパスワードを変更する。)
- ユーザー「1st-admin」で表示されるメインメニューは以下のとおり。

メインメニュー

The screenshot displays the Exastro IT Automation main menu. The top navigation bar includes the Exastro logo and 'Exastro IT Automation'. The main content area is divided into a left sidebar with navigation icons and a central dashboard. The dashboard features three circular gauges: 'Progress' (37% Total), 'Status' (0 OK, 0 Error, 0 Warning), and 'Result' (0 Total). Below the gauges are two tables: 'Jobs' and 'Users', each with columns for Name, Status, and Action.

Ⅱ .1stモデル導入手順 / 4.機器一覧のログイン情報の変更

- 「基本コンソール」 > 「機器一覧」 へ移動する。
- 項目「管理システム項番」が“100001”のレコードの更新ボタンを押下する。
- ITAが導入されているサーバのログイン情報を登録する。

変更する項目:

「ログインユーザーID」「ログインパスワード」「ssh鍵認証ファイル」「パスフレーズ」「認証方式」

- 「更新」 ボタンを押下する。

機器一覧

管理システム項番	HW機器種別	ホスト名	IPアドレス	MACアドレス	ネットワークデバイス名	ログインユーザーID	管理	ログインパスワード	ssh秘密鍵ファイル	パスフレーズ	認証方式	最終更新日時	最終操
100001	SV	exastro-it-automat	127.0.0.1			-----			ファイルを選択 選択されていません		パスワード認証	自動入力	自動入

※*は必須項目です。

戻る 更新

Ⅱ .1stモデル導入手順 / 5.プロキシ情報の登録

ITA導入サーバーがAWSとの接続にプロキシサーバーを使用する環境である場合、本手順を実行してください。

プロキシ情報の登録

- 「Ansible共通」 > 「グローバル変数管理」へ移動する。
- 「フィルタ」 > 「グローバル変数名」が“**GBL_PROXY**”のレコードの更新ボタンを押下する。
- 「備考」項目を参考に、「具体値」項目にプロキシサーバーの情報を入力して「更新」ボタンを押下する。

グローバル変数管理

一覧/更新

項番	グローバル変数名*	具体値*	変数名説明	アクセス権		備考	最終更新日時	最終更新者
				設定	アクセス許可ロール			
100001	GBL_PROXY		プロキシ変数	設定	1stモデル管理者ロール	ITA実行環境で使用するプロキシを入力してください。 【入力書式】 [ホスト]:[ポート番号] (例)http://xxxxxx.co.jp:8080	自動入力	自動入力

*は必須項目です。

戻る 更新

2

Ⅱ .1stモデル導入手順 / 6.API実行ユーザーのPW変更(1/2)

ユーザー管理の変更

- 以下の作業は常に必須。
- 「管理コンソール」>「ユーザ管理」へ移動する。
- 「ログインID」が"1st-model-api"のレコードの更新ボタンを押下する。
- 項目「ログインPW」に任意のパスワードを入力する。
- 「更新」ボタンを押下する。

ユーザ管理

一覧/更新

ユーザID	ログインID*	ログインPW	ユーザ名*	メールアドレス	PW最終更新日時	最終ログイン日時	PWカウンタ	ロック日時	アクセス権		備考
									設定	アクセス許可ロール	
100003	1st-model-api	<input type="password"/>	1stモデルAPIユーザ	sample@xxx.bbb.ccc	2022/05/01 00:00:00	入力不可	入力不可	入力不可	設定	1stモデル管理者ロール	CSテンプレート / 1stモデル

※*は必須項目です。

戻る 更新

Ⅱ .1stモデル導入手順 / 6.API実行ユーザーのPW変更(2/2)

グローバル変数管理の変更

- 「Ansible共通」 > 「グローバル変数管理」へ移動する。
- 「グローバル変数名」が“**GBL_API_PASSWORD**”のレコードの更新ボタンを押下する。
- 項目「具体値」に前のスライドで登録したパスワードと同じパスワードを入力する。
- 「更新」ボタンを押下する。

グローバル変数管理

一覧/更新 △閉じる

項番	グローバル変数名*	具体値*	変数名説明	アクセス権		備考	最終更新日時	最終更新者
				設定	アクセス許可ロール			
100002	GBL_API_PASSWORD	password	API PW	設定	1stモデル管理者ロール	1stモデルAPIユーザーのパスワードを入力してください。 「1stモデル管理者」のみ閲覧・変更が可能。	自動入力	自動入力

※*は必須項目です。

戻る 更新

2

Ⅱ .1stモデル導入手順 / 7.AWS環境設定

- オートスケールWebシステム構築に必要な以下の①～③の設定をAWS管理コンソールで実施する。
- ①～③の設定はオートスケールWebシステムを構築するリージョンで実施する。
- 取得した設定情報はExastro ITAに登録するため控えておく。

オートスケールWebシステム構築のためのAWS環境設定項目

①AMI (Amazon マシンイメージ)の登録

EC2 > イメージ > AMI に使用するAMIイメージを登録し、「AMI ID」を取得する。

(参考)AMI(https://docs.aws.amazon.com/ja_jp/AWSEC2/latest/UserGuide/AMIs.html)

②キーペアの作成

EC2 > ネットワーク&セキュリティ > キーペア の「キーペアを作成」からキーを作成し、「キーペアファイル (.pem)」と「キーペア名」を取得。

(参考)キーペア(https://docs.aws.amazon.com/ja_jp/AWSEC2/latest/UserGuide/ec2-key-pairs.html)

③ELB用のSSL証明書の登録

Certificate Manager に証明書を登録し「ARN (Amazonリソースネーム)」を取得。

(参考)Certificate Manager(<https://aws.amazon.com/jp/certificate-manager/>)

Ⅲ. システム構築・更新手順

Ⅲ.システム構築・更新手順 / 1.はじめに

はじめに

- システムの構築と更新では同一のConductorを使用する。
- 構築,更新時のパターンは以下の通り。
 - 実行時にAWS CloudFormationに指定したスタックが存在しない場合、スタック構築を実行する。
 - スタックが存在して、パラメータが異なる場合、スタックの更新を実行する。
 - スタックが存在して、パラメータが同一の場合、処理はスキップされる。
- スタック名は以下の形式でAWS CloudFormationへ登録される。

スタック名の形式: "**<システム名>-<スタック名>**"

- 「システム名」は「基盤管理」「共通パラメータ」に登録する。
- 「スタック名」は「基盤/シナリオ」、「ユーザー/シナリオ」、「システム/シナリオ」に登録する。

構築手順の概要

- Conductor実行順序は以下の通り。

[Conductor実行順序]

- ①AWS管理者基盤の構築 → AWS管理者の作成
- ②インフラユーザー基盤の構築 → インフラ管理者、インフラメンバーの作成
- ③CloudFormationロールの構築
- ④オートスケールWebシステムの構築
- ⑤セキュリティ付帯機能の構築
- ⑥WebサーバへPlaybook実行

オペレーションについて

- 初期状態のオペレーションには、「**共通オペレーション**」「**環境-A**」「**環境-B**」が登録されている。
- 上記の構築手順と使用するオペレーションは以下の通り。
 - ①②: 「共通オペレーション」を実行時に選択する。
 - ③④⑤⑥: 「環境-A」「環境-B」を実行時に選択する。
- 以降の手順では「共通オペレーション」「環境-A」を使用して説明する。
「環境-B」の実行手順は「環境-A」と同様。

Ⅲ. システム構築・更新手順 / 2.AWS管理者基盤

共通パラメータの更新

- ITAに1stモデル管理者でログインする。
- 「基盤管理」 > 「共通パラメータ」へ移動する。
- 「オペレーション名」が”共通オペレーション”のレコードの値を更新する。
全ての項目に値を入力し「更新」を押下する。

共通パラメータ

共通パラメータ																	
一覧/更新																	
履歴	更新	廃止	No	ホスト名	オペレーション					パラメータ				最新			
					ID	オペレーション名	基準日時	実施予定日時	最終実行日時	システム名	AWS環境		タグ				
										アカウントID	リージョン	システム環境	システム概要	利用者	利用部門	コスト	
履歴	更新	廃止	1	exastro-it-automation	100,001	共通オペレーション(1stモデル)	2021/04/01 12:10	2021/04/01 12:10		-----	000000000000	ap-northeast-1	Dev	-----	-----	-----	2021/0

フィルタ結果件数: 1

Excel出力

POINT

変更が必要:
「システム名」…英数字、ハイフンで任意の値を入力
「アカウントID」…数字12桁で入力
任意で変更:
「スタック作成リージョン」
「システム環境」～「コストセンター」

AWS管理者グループの更新

- 「基盤管理」 > 「AWS管理者グループ」へ移動する。
- 登録済みのパラメータの値を必要に応じて更新する。

AWS管理者グループ

一覧/更新											
履歴	更新	廃止	No	ホスト名	オペレーション			パラメータ		アクセス権	備考
					ID	オペレーション名	基準日時	実施予定日時	最終実行日時	AWS管理者グループ名	
履歴	更新	廃止	1	exastro-it-automation	100,001	共通オペレーション	2021/04/01 12:10	2021/04/01 12:10		CS-1st-AWS-Admin-Group	

フィルタ結果件数: 1

Excel出力

1stモデル管理者のAWS認証情報を取得

- AWS管理コンソールへ「1stモデル管理者」として使用するIAMユーザーでログインする。
- 「IAM」>「ユーザー管理」へ移動する。
- 「1stモデル管理者」として使用するIAMユーザーのアクセスキーID、シークレットアクセスキーを取得する。

AWS認証情報の更新

- ITAに「1stモデル管理者」でログインする。
- 「AWS認証情報管理」>「1stモデル管理者【認証】」へ移動する。
- 「オペレーション名」が”共通オペレーション”の「アクセスキーID」「シークレットアクセスキー」をAWSから取得した値に更新する。

1stモデル管理者【認証】

一覧/更新													
履歴	更新	廃止	No	ホスト名	オペレーション				パラメータ		アクセス権	備考	
					ID	オペレーション名	基準日時	実施予定日時	最終実行日時	アクセスキーID	シークレットアクセスキー		アクセス許可ロール
履歴	更新	廃止	1	exastro-it-automation	100,001	共通オペレーション	2021/04/01 12:10	2021/04/01 12:10		XXXXXX	*****	1stモデル管理者ロール	

フィルタ結果件数: 1

Excel出力

MS Teams Webhookを取得

- 以下の手順はTeams通知機能を使用しない場合は不要。
- 以下の手順はTeamsアプリケーション内で実施する。
- 通知したいチームの「コネクタ」 > 「Incoming Webhook」を選択する。
- 通知するAPIの名前を入力して、「作成」を押下する。

Teamsアプリケーション



参考URL(受信Webhookの取得):

<https://docs.microsoft.com/ja-jp/microsoftteams/platform/webhooks-and-connectors/how-to/add-incoming-webhook>

MS Teamsメニューの更新

- 以下の手順はTeams通知機能を使用しない場合は不要。
- 「通知先管理」 > 「MS Teams」へ移動する。
- 「オペレーション名」が”共通オペレーション(1stモデル)”のレコードの更新ボタンを押下する。
- 「Webhook」にTeamsで取得したWebhookを入力して更新ボタンを押下する。

MS Teams

一覧/更新

No	ホスト名*	オペレーション オペレーション*	パラメータ Webhook*	設定	アクセス権 アクセス許可ロール	備考	最終更新
1	exastro-it-automation	2021/04/01 12:10_100001:共通オペレーション(1stモデル)	-----	設定	1stモデル管理者ロール, AWS管理者ロール		自動入力

※*は必須項目です。

戻る 更新

Conductor実行(1/2)

- 「Conductor」 > 「Conductor作業実行」へ移動する。
- 「Conductor[一覧]」の「AWS管理者環境基盤 / 構築・更新」を選択する。
- 「オペレーション[一覧]」から「共通オペレーション」を選択する。

選択	ConductorクラスID	Conductor名称	説明
<input type="radio"/>	100,001	AWS管理者基盤 / 構築・更新	AWS管理者基盤の作成または更新を実行します。 ◆実行ユーザー: 「1stモデル管理者」
<input type="radio"/>	100,002	インフラユーザー基盤 / 構築・更新	インフラユーザー基盤の作成または更新を実行します。 ◆実行ユーザー: 「AWS管理者」
<input type="radio"/>	100,003	CloudFormationロール / 構築・更新	CloudFormation実行用IAMロールの構築・更新を実行します。 ◆実行ユーザー: 「AWS管理者」
<input type="radio"/>	100,004	オートスケーリングWebシステム / 構築・更新	オートスケーリングWebシステムの構築・更新を実行します。 ◆実行ユーザー: 「インフラ管理者」
<input type="radio"/>	100,005	セキュリティ付帯機能 / 構築・更新	セキュリティ付帯機能の構築・更新を実行します。 ◆実行ユーザー: 「インフラ管理者」
<input type="radio"/>	100,006	オートスケーリングWebサーバへPlaybook実行	オートスケーリングWebシステムのWebサーバへPlaybookを実行します。 ◆実行ユーザー: 「インフラ管理者」
<input type="radio"/>	100,007	AWS管理者(IAMユーザー, ITAユーザー)の作成	「AWS管理者」としての権限を持ったIAMユーザー, ITAユーザーを作成します。 ◆実行ユーザー: 「1stモデル管理者」
<input type="radio"/>	100,008	インフラ管理者(ITAユーザー, IAMユーザー)の作成	「インフラ管理者」としての権限を持ったIAMユーザー, ITAユーザーを作成します。 ◆実行ユーザー: 「AWS管理者」
<input type="radio"/>	100,009	インフラメンバー(IAMユーザー, ITAユーザー)の作成	「インフラメンバー」としての権限を持ったIAMユーザー, ITAユーザーを作成します。 ◆実行ユーザー: 「AWS管理者」



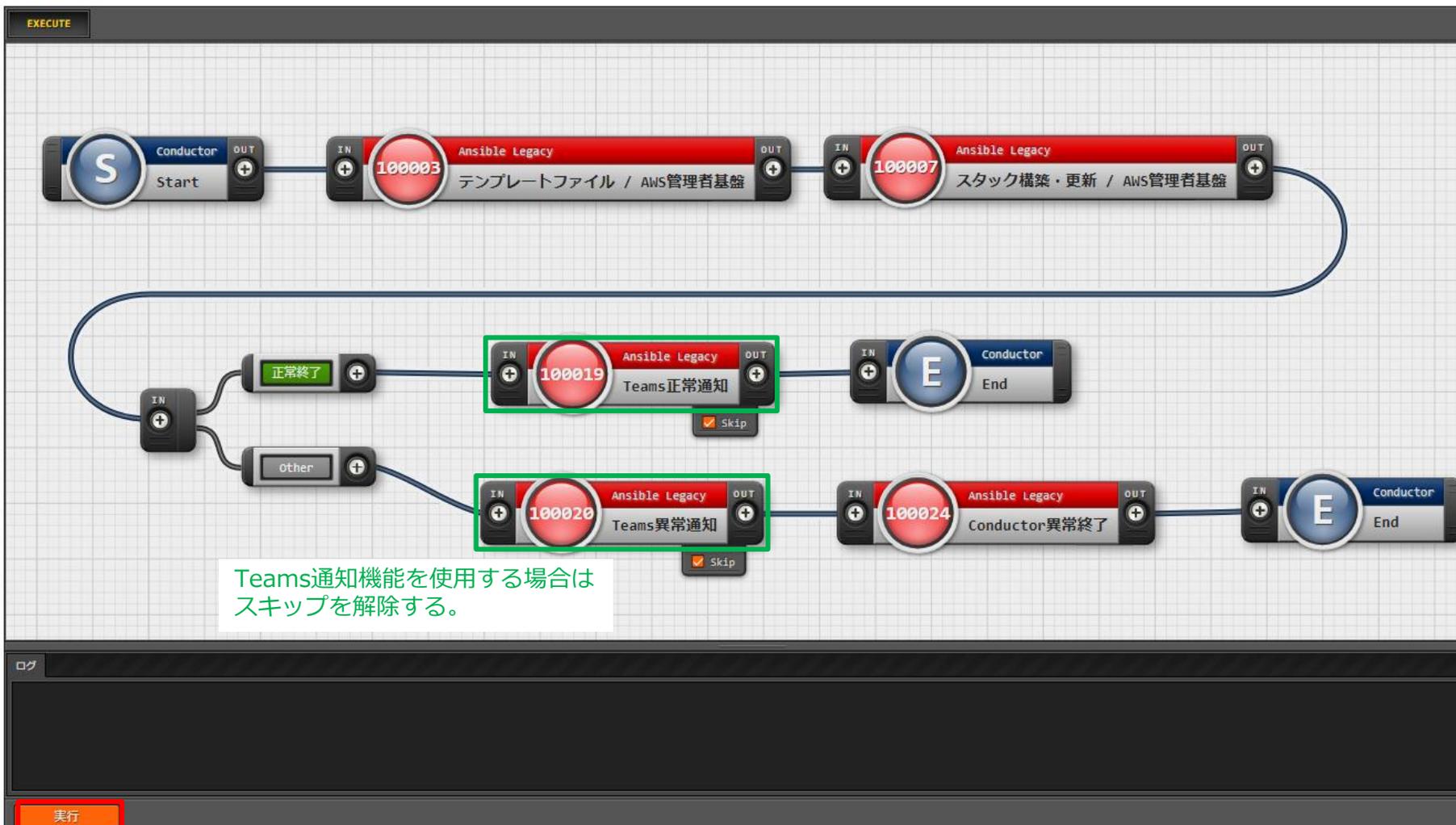
選択	No.	オペレーションID	オペレーション名	実施予定日時	最終実行日時	アクセス権 アクセス許可ロール	備考
<input type="radio"/>	100,001	100,001	共通オペレーション	2021/04/01 12:10			Cテンプレート / 1stモデル
<input type="radio"/>	100,002	100,002	環境A(1stモデル)	2021/04/01 12:10			C5テンプレート / 1stモデル
<input type="radio"/>	100,003	100,003	環境B(1stモデル)	2021/04/01 12:10			C5テンプレート / 1stモデル

フィルタ結果件数: 3



Conductor実行(2/2)

- 画面下部の実行ボタンを押下する。



実行結果の確認

- Statusに「正常終了」が表示されていることを確認する。

The screenshot displays the AWS CloudFormation console interface. The main area shows a workflow diagram with several nodes. The top row includes a 'Start' node, followed by two 'Ansible Legacy' nodes (one for 'テンプレートファイル / AWS管理者 / 基盤' and another for 'スタック構築・更新 / AWS管理者 / 基盤'), both marked as 'DONE'. Below these, there are more nodes, including one labeled '正常終了' (Completed) and another 'DONE' for 'Teams 正常通知'. The right-hand pane provides details for the conductor, including its name 'AWS管理者基盤 / 構築・更新', instance ID '1', and status '正常終了' (highlighted with a red box). It also shows the start and end times, execution user '1stモデル管理者', and reservation date. A note at the bottom of the right-hand pane reads: 'AWS管理者基盤の作成または更新を実行します。実行ユーザー: 「1stモデル管理者」'.



スタックの確認

- 実行環境アカウントでAWSマネジメントコンソールへログインする。
- CloudFormation スタック一覧画面へ移動する。
- 一連のスタックが構築されていることを確認する。

Ⅲ. システム構築・更新手順 / 3.AWS管理者

AWS管理者リストの更新

- 「ユーザーリスト管理」 > 「AWS管理者リスト」へ移動する。
- 登録済みのITAユーザー、IAMユーザーのログイン情報を必要に応じて更新する。

AWS管理者リスト

一覧/更新				オペレーション					パラメータ				アクセ					
履歴	更新	廃止	No	ID	オペレーション名	基準日時	実施予定日時	最終実行日時	代入順序	ITAユーザー設定			AWS IAMユーザー設定		アクセス許			
										ユーザー名	ログインID	初回ログインPW	メールアドレス	紐付ロール名	IAMユーザー名	初回ログインPW	IAMグループ名	アクセス許
履歴	更新	廃止	1	tomation 100,001	共通オペレーション	2021/04/01 12:10	2021/04/01 12:10			AWS管理者	1st-aws-admin	*****	sample@aaa.bbb.co.jp	AWS管理者ロール	1st-aws-admin	*****	CS-1st-AWS-Admin-Group	2
履歴	更新	廃止	2	tomation 100,001	共通オペレーション	2021/04/01 12:10	2021/04/01 12:10			AWS管理者/サブ	1st-aws-admin-sub	*****	sample@aaa.bbb.co.jp	AWS管理者ロール	1st-aws-admin-sub	*****	CS-1st-AWS-Admin-Group	2

フィルタ結果件数: 2

Excel出力

POINT

初期状態の「初回ログインPW」は以下の通り。
ITAユーザー: "password"
IAMユーザー: "Password!"

Conductor実行

- 「Conductor」 > 「Conductor作業実行」へ移動する。
- 「Conductor[一覧]」の「AWS管理者(ITAユーザー,IAMユーザー)の作成」を選択する。
- 「オペレーション[一覧]」から「共通オペレーション」を選択する。

選択	ConductorクラスID	Conductor名称	説明
<input type="radio"/>	100,001	AWS管理者基盤 / 構築・更新	AWS管理者基盤の作成または更新を実行します。 ◆実行ユーザー: 「1stモデル管理者」
<input type="radio"/>	100,002	インフラユーザー基盤 / 構築・更新	インフラユーザー基盤の作成または更新を実行します。 ◆実行ユーザー: 「AWS管理者」
<input type="radio"/>	100,003	CloudFormationロール / 構築・更新	CloudFormation実行用IAMロールの構築・更新を実行します。 ◆実行ユーザー: 「AWS管理者」
<input type="radio"/>	100,004	オートスケールWebシステム / 構築・更新	オートスケールWebシステムの構築・更新を実行します。 ◆実行ユーザー: 「インフラ管理者」
<input type="radio"/>	100,005	セキュリティ付帯機能 / 構築・更新	セキュリティ付帯機能の構築・更新を実行します。 ◆実行ユーザー: 「インフラ管理者」
<input type="radio"/>	100,006	オートスケールWebサーバへPlaybook実行	オートスケールWebシステムのWebサーバへPlaybookを実行します。 ◆実行ユーザー: 「インフラ管理者」
<input type="radio"/>	100,007	AWS管理者(IAMユーザー,ITAユーザー)の作成	「AWS管理者」としての権限を持ったIAMユーザー,ITAユーザーを作成します。 ◆実行ユーザー: 「1stモデル管理者」
<input type="radio"/>	100,008	インフラ管理者(ITAユーザー,IAMユーザー)の作成	「インフラ管理者」としての権限を持ったIAMユーザー,ITAユーザーを作成します。 ◆実行ユーザー: 「AWS管理者」
<input type="radio"/>	100,009	インフラメンバー(IAMユーザー,ITAユーザー)の作成	「インフラメンバー」としての権限を持ったIAMユーザー,ITAユーザーを作成します。 ◆実行ユーザー: 「AWS管理者」

選択	No.	オペレーションID	オペレーション名	実施予定日時	最終実行日時	アクセス権 アクセス許可ロール	備考
<input type="radio"/>	100,001	100,001	共通オペレーション	2021/04/01 12:10			CSテンプレート / 1stモデル
<input type="radio"/>	100,002	100,002	環境A(1stモデル)	2021/04/01 12:10			CSテンプレート / 1stモデル
<input type="radio"/>	100,003	100,003	環境B(1stモデル)	2021/04/01 12:10			CSテンプレート / 1stモデル

フィルタ結果件数: 3

1

2

Conductor実行(2/2)

- 画面下部の実行ボタンを押下する。

The screenshot displays the Exastro Conductor execution interface. The main area shows a workflow diagram on a grid background. The workflow starts with a 'Start' node (ID 100002) labeled 'Ansible Legacy' with the description 'テンプレートファイル / AWS管理者 / IAMユーザー'. This leads to another 'Ansible Legacy' node (ID 100010) labeled 'スタック構築・更新 / AWS管理者 / IAMユーザー', which then connects to an 'Ansible Legacy Role' node (ID 100032) labeled 'ITAユーザーを一括作成 / AWS管理者'. The workflow then branches into two paths: one leading to a 'Teams正常通知' node (ID 100026) and another to a 'Teams異常通知' node (ID 100027), both labeled 'Ansible Legacy'. Both notification nodes lead to 'End' nodes (ID 100031) labeled 'Conductor'.

On the right side, there is a panel with the following information:

- Conductor名称**
 - ID: 100007
 - Name: AWS管理者(IAMユーザー,ITAユーザー)の作成
 - Note: 「AWS管理者」としての権限を持ったIAMユーザー,ITAユーザーを作成します。 ◆実行ユーザー: 「1stモデル管理者」
- Operation**
 - Operation ID: 100001
 - Operation name: 共通オペレーション(1stモデル)

At the bottom left, there is a '実行' (Execute) button.

実行結果の確認

- Statusに「正常終了」が表示されていることを確認する。

The screenshot shows the AWS CloudFormation console's 'CHECKING' view. The main area displays a flow diagram of the stack's execution path. The 'Start' node is followed by 'Ansible Legacy' tasks: 'テンプレートファイル / AWS管理者 / IAMユーザー' (DONE), 'スタック構築・更新 / AWS管理者 / IAMユーザー' (DONE), and 'ITAユーザーを一括作成 / AWS管理者' (DONE). A 'SKIP' node for 'Teams 正常通知' is shown, followed by a 'DONE' node for 'End'. Below this, a '100027' node for 'Teams 異常通知' is shown as failed, followed by a '100031' node for 'conductor 異常終了' (failed), and finally an 'End' node. On the right, a metadata panel shows the conductor's status as '正常終了' (Normal End), which is highlighted with a red box. The operation name is '共通オペレーション(1stモデル)'.

スタックの確認

- 実行環境アカウントでAWSマネジメントコンソールへログインする。
- CloudFormation スタック一覧画面へ移動する。
- 一連のスタック、リソースが構築されていることを確認する。

AWS管理者へログイン情報を連携

- 「Ⅲ.システム構築・更新手順 / 3.AWS管理者(1/5)」で登録したログイン情報(ログインID,初回パスワード)を「AWS管理者」の利用者に連携する。



Ⅲ. システム構築・更新手順 / 4. インフラユーザー基盤

AWS管理者の認証情報を取得

- AWS管理コンソールへ「AWS管理者」として使用するIAMユーザーでログインする。
(ログイン情報は1stモデル管理者が通知。)
- 「IAM」>「ユーザー管理」へ移動する。
- 「AWS管理者」として使用するIAMユーザーのアクセスキーID、シークレットアクセスキーを取得する。

AWS認証情報の更新

- ITAに「AWS管理者」でログインする。(ログイン情報は1stモデル管理者が連携する。)
- 「AWS認証情報管理」>「AWS管理者【認証】」へ移動する。
- 全てのレコードの「アクセスキーID」「シークレットアクセスキー」をAWSから取得した値に更新する。

AWS管理者【認証】

一覧/更新													
履歴	更新	廃止	No	ホスト名	オペレーション				パラメータ		アクセス権	備考	
					ID	オペレーション名	基準日時	実施予定日時	最終実行日時	アクセスキーID	シークレットアクセスキー		アクセス許可ロール
履歴	更新	廃止	1	exastro-it-automation	100,001	共通オペレーション(1stモデル)	2021/04/01 12:10	2021/04/01 12:10	2021/04/01 12:10	XXXXXXXXXX	*****	AWS管理者ロール	202
履歴	更新	廃止	2	exastro-it-automation	100,002	環境A(1stモデル)	2021/04/01 12:10	2021/04/01 12:10	2021/04/01 12:10	XXXXXXXXXX	*****	AWS管理者ロール	202
履歴	更新	廃止	3	exastro-it-automation	100,003	環境B(1stモデル)	2021/04/01 12:10	2021/04/01 12:10	2021/04/01 12:10	XXXXXXXXXX	*****	AWS管理者ロール	202

フィルタ結果件数: 3

Excel出力

インフラユーザーグループの更新

- 「基盤管理」> 「インフラユーザーグループ」へ移動する。
- 「インフラ管理者グループ名」「インフラメンバーグループ名」の値を必要に応じて更新する。

インフラユーザーグループ

一覧/更新												
履歴	更新	廃止	No	ホスト名	オペレーション				パラメータ		アクセス権	備考
					ID	オペレーション名	基準日時	実施予定日時	最終実行日時	インフラ管理者グループ名	インフラメンバーグループ名	
履歴	更新	廃止	1	exastro-it-automation	100,001	共通オペレーション(1stモデル)	2021/04/01 12:10	2021/04/01 12:10		CS-1st-Infra-Admin-Group	CS-1st-Infra-Member-Group	

フィルタ結果件数: 1

Excel出力

Conductor実行(1/2)

- 「Conductor」 > 「Conductor作業実行」へ移動する。
- 「Conductor[一覧]」の「インフラユーザー基盤 / 構築・更新」を選択する。
- 「オペレーション[一覧]」から「共通オペレーション」を選択する。

選択	ConductorクラスID	Conductor名称	
<input checked="" type="radio"/>	100,002	インフラユーザー基盤 / 構築・更新	インフラユーザーのIAMグループの作成 ◆実行ユーザー: 「AWS管理コンソール」
<input type="radio"/>	100,003	CloudFormationロール / 構築・更新	CloudFormation実行用IAMロールの作成 ◆実行ユーザー: 「AWS管理コンソール」
<input type="radio"/>	100,004	オートスケーリングWebシステム / 構築・更新	オートスケーリングWebシステムの実行 ◆実行ユーザー: 「インフラメンバー」
<input type="radio"/>	100,005	セキュリティ付帯機能 / 構築・更新	セキュリティ付帯機能の構築 ◆実行ユーザー: 「インフラメンバー」
<input type="radio"/>	100,006	オートスケーリングWebサーバへPlaybook実行	オートスケーリングWebシステムの実行 ◆実行ユーザー: 「インフラメンバー」
<input type="radio"/>	100,008	インフラ管理者(ITAユーザー,IAMユーザー)の作成	「インフラ管理者」としてのIAMグループの作成 ◆実行ユーザー: 「AWS管理コンソール」
<input type="radio"/>	100,009	インフラメンバー(IAMユーザー,ITAユーザー)の作成	「インフラメンバー」としてのIAMグループの作成 ◆実行ユーザー: 「AWS管理コンソール」
<input type="radio"/>	100,011	インフラユーザー基盤 / 削除	インフラユーザー基盤の削除 ◆実行ユーザー: 「AWS管理コンソール」
<input type="radio"/>	100,012	CloudFormationロール / 削除	CloudFormation実行用IAMロールの削除 ◆実行ユーザー: 「AWS管理コンソール」
<input type="radio"/>	100,013	オートスケーリングWebシステム / 削除	オートスケーリングWebシステムの実行 ◆実行ユーザー: 「インフラメンバー」



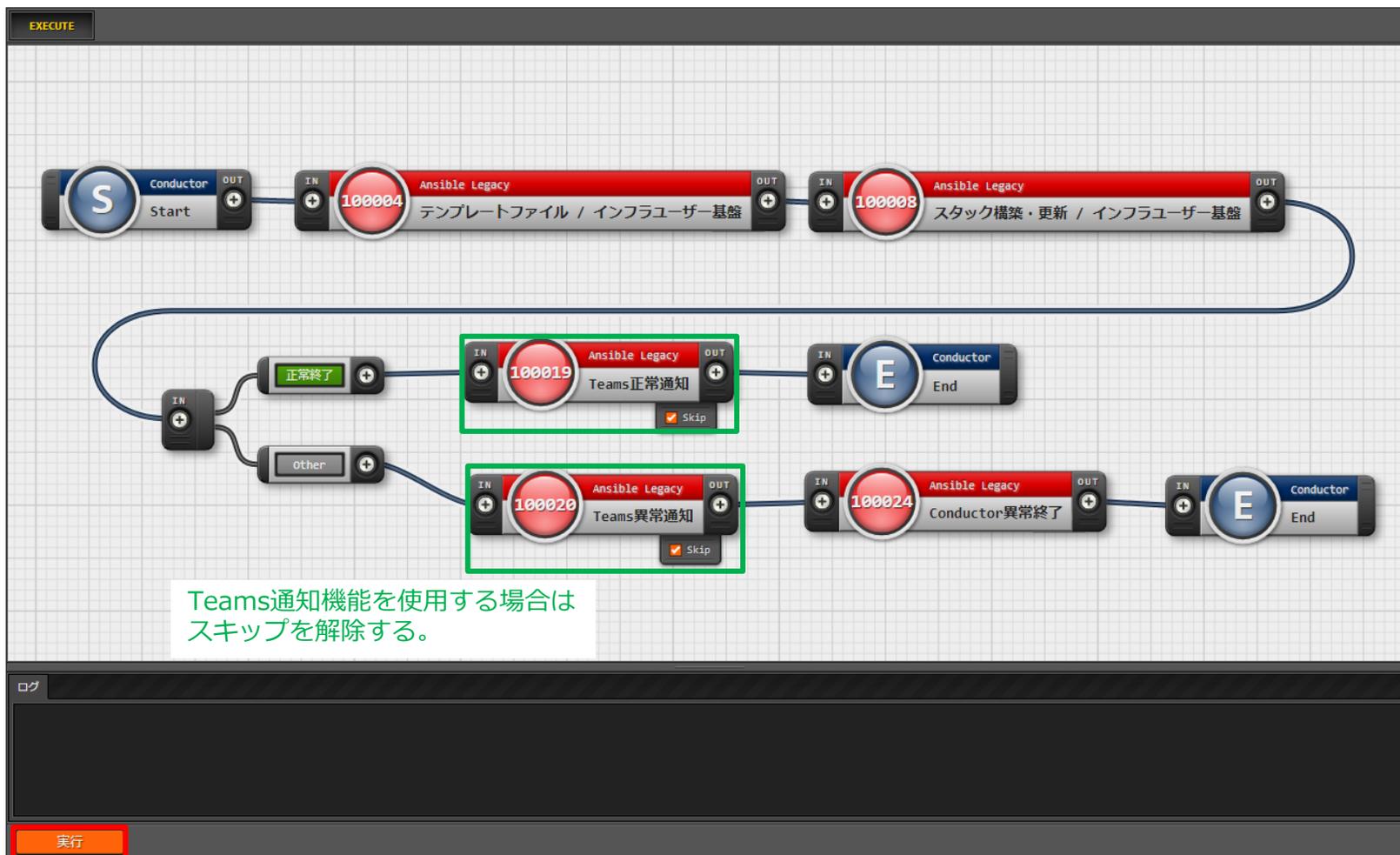
選択	No.	オペレーションID	オペレーション名	実施予定日時	最終実行日時	アクセス権 アクセス許可ロール	備考
<input checked="" type="radio"/>	100,001	100,001	共通オペレーション	2021/04/01 12:10			CSテンプレート / 1stモデル
<input type="radio"/>	100,002	100,002	環境A(1stモデル)	2021/04/01 12:10			CSテンプレート / 1stモデル
<input type="radio"/>	100,003	100,003	環境B(1stモデル)	2021/04/01 12:10			CSテンプレート / 1stモデル

フィルタ結果件数: 3



Conductor実行(2/2)

- 画面下部の実行ボタンを押下する。



実行結果の確認

- Statusに「正常終了」が表示されていることを確認する。

The screenshot displays the AWS CloudFormation console interface. The main area shows a workflow diagram with several nodes. The top row consists of three nodes: 'Start' (blue circle with 'S'), 'Ansihle Legacy' (red bar with 'DONE' in a green circle), and another 'Ansihle Legacy' (red bar with 'DONE' in a green circle). Below this, there are two parallel paths. The upper path includes a '正常終了' (Normal End) node (green circle), followed by 'Ansihle Legacy Teams正常通知' (red bar with 'DONE' in a green circle), and 'Conductor End' (blue circle with 'DONE' in a green circle). The lower path includes 'Ansihle Legacy Teams異常通知' (red bar with '100027' in a grey circle), 'Ansihle Legacy Conductor異常終了' (red bar with '100031' in a grey circle), and 'Conductor End' (blue circle with 'SKIP' in a grey circle). The right sidebar contains the following information:

Conductor名称	
Conductor instance ID	4
Conductor name	インフラユーザー基盤 / 構築・更新
Status	正常終了
Start time	2021/04/28 14:56:31
End time	2021/04/28 14:58:57
Execution user	AWS管理者
Reservation date	
Emergency stop	
Note	インフラユーザー基盤の作成または更新を実行します。 ◆実行ユーザー: 「AWS管理者」
Operation	
Operation ID	100001
Operation name	共通オペレーション(1stモデル)

スタックの確認

- 実行環境アカウントでAWSマネジメントコンソールへログインする。
- CloudFormation スタック一覧画面へ移動する。
- 一連のスタック、リソースが構築されていることを確認する。

Ⅲ.システム構築・更新手順 / 5.インフラ管理者

インフラ管理者リストの更新

- 「ユーザーリスト管理」 > 「インフラ管理者リスト」へ移動する。
- 登録済みのITAユーザー、IAMユーザーのログイン情報を必要に応じて更新する。

インフラ管理者リスト

一覧/更新				オペレーション				パラメータ				アクセス権		備考			
履歴	更新	廃止	No	名	基準日時	実施予定日時	最終実行日時	代入順序	ITAユーザー設定			AWS IAMユーザー設定			アクセス許可ロール		
									ユーザー名	ログインID	初回ログインPW	メールアドレス	紐付ロール名	TAMユーザー名	初回ログインPW	TAMグループ名	
履歴	更新	廃止	1	インフラ管理者	2021/04/01 12:10	2021/04/01 12:10	2021/04/01 12:10	1	インフラ管理者	1st-infra-admin	*****	sample@aaa.bbb.co.jp	インフラ管理者ロール	1st-infra-admin	*****	CS-1st-Infra-Admin-Group	
履歴	更新	廃止	2	インフラ管理者/サブ	2021/04/01 12:10	2021/04/01 12:10	2021/04/01 12:10	2	インフラ管理者/サブ	1st-infra-admin-sub	*****	sample@aaa.bbb.co.jp	インフラ管理者ロール	1st-infra-admin-sub	*****	CS-1st-Infra-Admin-Group	

フィルタ結果件数: 2

Excel出力

POINT

初期状態の「初回ログインPW」は以下の通り。
ITAユーザー: "password"
IAMユーザー: "Password!"

Conductor実行

- 「Conductor」 > 「Conductor作業実行」へ移動する。
- 「Conductor[一覧]」の「インフラ管理者(ITAユーザー,IAMユーザー)の作成」を選択する。
- 「オペレーション[一覧]」から「共通オペレーション」を選択する。

選択	ConductorクラスID	Conductor名称	説明
<input type="radio"/>	100,001	AWS管理者基盤 / 構築・更新	AWS管理者基盤の作成または更新を実行します。 ◆実行ユーザー: 「1stモデル管理者」
<input type="radio"/>	100,002	インフラユーザー基盤 / 構築・更新	インフラユーザー基盤の作成または更新を実行します。 ◆実行ユーザー: 「AWS管理者」
<input type="radio"/>	100,003	CloudFormationロール / 構築・更新	CloudFormation実行IAMロールの構築・更新を実行します。 ◆実行ユーザー: 「AWS管理者」
<input type="radio"/>	100,004	オートスケーリングWebシステム / 構築・更新	オートスケーリングWebシステムの構築・更新を実行します。 ◆実行ユーザー: 「インフラ管理者」
<input type="radio"/>	100,005	セキュリティ付帯機能 / 構築・更新	セキュリティ付帯機能の構築・更新を実行します。 ◆実行ユーザー: 「インフラ管理者」
<input type="radio"/>	100,006	オートスケーリングWebサーバへのPlaybook実行	オートスケーリングWebシステムのWebサーバへのPlaybookを実行します。 ◆実行ユーザー: 「インフラ管理者」
<input type="radio"/>	100,007	AWS管理者(IAMユーザー,ITAユーザー)の作成	「AWS管理者」としての権限を持ったIAMユーザー,ITAユーザーを作成します。 ◆実行ユーザー: 「1stモデル管理者」
<input type="radio"/>	100,008	インフラ管理者(ITAユーザー,IAMユーザー)の作成	「インフラ管理者」としての権限を持ったIAMユーザー,ITAユーザーを作成します。 ◆実行ユーザー: 「AWS管理者」
<input type="radio"/>	100,009	インフラメンバー(IAMユーザー,ITAユーザー)の作成	「インフラメンバー」としての権限を持ったIAMユーザー,ITAユーザーを作成します。 ◆実行ユーザー: 「AWS管理者」

選択	No.	オペレーションID	オペレーション名	実施予定日時	最終実行日時	アクセス権 アクセス許可ロール	備考
<input type="radio"/>	100,001	100,001	共通オペレーション	2021/04/01 12:10			CSテンプレート / 1stモデル
<input type="radio"/>	100,002	100,002	環境A(1stモデル)	2021/04/01 12:10			CSテンプレート / 1stモデル
<input type="radio"/>	100,003	100,003	環境B(1stモデル)	2021/04/01 12:10			CSテンプレート / 1stモデル

フィルタ結果件数: 3

1

2

Conductor実行(2/2)

- 画面下部の実行ボタンを押下する。

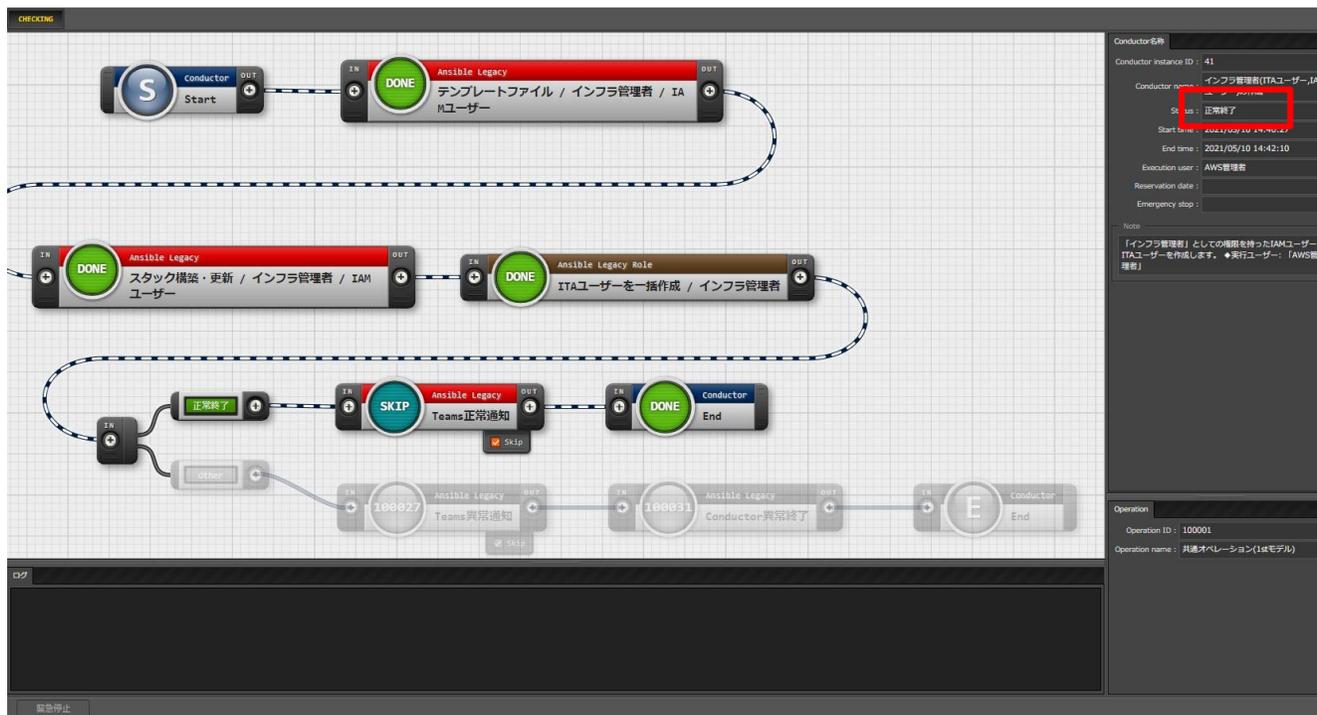
The screenshot displays the Conductor execution interface. The main area shows a workflow diagram on a grid background. The workflow starts with a 'Conductor Start' node (ID: 100004) which connects to an 'Ansible Legacy' node (ID: 100012) titled 'スタック構築・更新 / インフラ管理者 / IAMユーザー'. This node connects to another 'Ansible Legacy' node (ID: 100034) titled 'ITAユーザーを一括作成 / インフラ管理者'. From there, the workflow branches into two paths: one leading to a 'Teams正常通知' node (ID: 100026) and another to a 'Teams異常通知' node (ID: 100027). Both of these nodes lead to 'Conductor End' nodes (ID: 100031). A 'Skip' button is visible under the 'Teams正常通知' node. The sidebar on the right contains the following information:

- Conductor名称**
 - ID: 100008
 - Name: インフラ管理者(ITAユーザー,IAMユーザー)の作成
 - Note: 「インフラ管理者」としての権限を持ったIAMユーザー, ITAユーザーを作成します。 ◆実行ユーザー: 「AWS管理者」
- Operation**
 - Operation ID: 100001
 - Operation name: 共通オペレーション(1stモデル)

At the bottom left, there is a red-bordered button labeled '実行' (Execute).

実行結果の確認

- Statusに「正常終了」が表示されていることを確認する。



スタックの確認

- 実行環境アカウントでAWSマネジメントコンソールへログインする。
- CloudFormation スタック一覧画面へ移動する。
- 一連のスタックが構築されていることを確認する。

インフラ管理者の認証情報の取得

- 「インフラ管理者」はIAM権限を持たないため、インフラ管理者の認証情報は「AWS管理者」がITAへ登録する。
- AWS管理コンソールへ「AWS管理者」でログインする。
- 「IAM」>「ユーザー管理」へ移動する。
- 「4.構築・更新手順 / 5.インフラ管理者(1/4)」で設定したユーザーの内、「紐付ロール名」に「インフラ管理者/特権ロール」を設定したユーザーのアクセスキー、シークレットキーを取得する。(初期状態では「インフラ管理者」)

インフラ管理者 認証情報の更新

- ITAに「AWS管理者」でログインする。
- 「AWS認証情報管理」>「インフラ管理者【認証】」へ移動する。
- 「アクセスキーID」「シークレットアクセスキー」をAWSから取得した値に更新する。

インフラ管理者【認証】

履歴	更新	廃止	No	ホスト名	オペレーション			パラメータ		アクセス権	備考		
					ID	オペレーション名	基準日時	実施予定日時	最終実行日時	アクセスキーID		シークレットアクセスキー	アクセス許可ロール
履歴	更新	廃止	1	exastro-it-automation	100,002	環境A(1stモデル)	2021/04/01 12:10	2021/04/01 12:10		XXXXXXXX	*****	インフラ管理者ロール	

フィルタ結果件数: 1

Excel出力

インフラ管理者へ「インフラ管理者特権ロール」を紐付

- 作成した「インフラ管理者」のうち、プレイブック・テンプレートファイルの編集権限を持たせるユーザー(一人または複数人)に対して「インフラ管理者特権ロール」を紐づける。

[紐付手順]

- 「管理コンソール」>「ロール・ユーザ紐付管理」に移動する。
- 「登録」>「登録開始」ボタンを押下して、①紐づけるロール②ユーザーのログインIDを選択する。
- 選択後、「登録ボタン」を押下する。

ロール・ユーザ紐付管理

項番	ロール (ID:名称) *	ユーザID:ログインID *	デフォルトアクセス権	アクセス権		備考
				設定	アクセス許可ロール	
自動入力	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="button" value="設定"/>		

※*は必須項目です。

■ インフラ管理者へログイン情報を連携

- 「Ⅲ.システム構築・更新手順 / 3.インフラ 管理者(1/6)」で登録したログイン情報(ログインID,初回パスワード)を「インフラ管理者」の利用者に連携する。



Ⅲ.システム構築・更新手順 / 6.インフラメンバー

インフラメンバーリストの更新

- ITAに「AWS管理者」でログインする。
- 「ユーザーリスト管理」>「インフラメンバーリスト」へ移動する。
- 登録済みのパラメータの値を必要に応じて更新する。

インフラメンバーリスト

一覧/更新				オペレーション				パラメータ				アクセス権		備考		
履歴	更新	廃止	No	基準日時	実施予定日時	最終実行日時	代入順序	ITAユーザー設定				AWS IAMユーザー設定		アクセス許可ロール		
								ユーザー名	ログインID	初回ログインPW	メールアドレス	紐付ロール名	IAMユーザー名	初回ログインPW	IAMグループ名	
履歴	更新	廃止	1	21/04/01 12:10	2021/04/01 12:10		1	インフラメンバー	1st-infra-member	*****	sample@aaa.bbb.co.jp	インフラメンバーロール	1st-infra-member	*****	CS-1st-Infra-Member-Group	
履歴	更新	廃止	2	21/04/01 12:10	2021/04/01 12:10		2	インフラメンバー/サブ	1st-infra-member-sub	*****	sample@aaa.bbb.co.jp	インフラメンバーロール	1st-infra-member-sub	*****	CS-1st-Infra-Member-Group	

フィルタ結果件数: 2

Excel出力

POINT

初期状態の「初回ログインPW」は以下の通り。
ITAユーザー: "password"
IAMユーザー: "Password!"

Conductor実行

- 「Conductor」 > 「Conductor作業実行」へ移動する。
- 「Conductor[一覧]」の「インフラメンバー(ITAユーザー,IAMユーザー)の作成」を選択する。
- 「オペレーション[一覧]」から「共通オペレーション」を選択する。

選択	ConductorクラスID	Conductor名称	説明
<input type="radio"/>	100,001	AWS管理者基盤 / 構築・更新	AWS管理者基盤の作成または更新を実行します。 ◆実行ユーザー: 「1stモデル管理者」
<input type="radio"/>	100,002	インフラユーザー基盤 / 構築・更新	インフラユーザー基盤の作成または更新を実行します。 ◆実行ユーザー: 「AWS管理者」
<input type="radio"/>	100,003	CloudFormationロール / 構築・更新	CloudFormation実行用IAMロールの構築・更新を実行します。 ◆実行ユーザー: 「AWS管理者」
<input type="radio"/>	100,004	オートスケールWebシステム / 構築・更新	オートスケールWebシステムの構築・更新を実行します。 ◆実行ユーザー: 「インフラ管理者」
<input type="radio"/>	100,005	セキュリティ付帯機能 / 構築・更新	セキュリティ付帯機能の構築・更新を実行します。 ◆実行ユーザー: 「インフラ管理者」
<input type="radio"/>	100,006	オートスケールWebサーバへPlaybook実行	オートスケールWebシステムのWebサーバへPlaybookを実行します。 ◆実行ユーザー: 「インフラ管理者」
<input type="radio"/>	100,007	AWS管理者(IAMユーザー,ITAユーザー)の作成	「AWS管理者」としての権限を持ったIAMユーザー,ITAユーザーを作成します。 ◆実行ユーザー: 「1stモデル管理者」
<input type="radio"/>	100,008	インフラ管理者(ITAユーザー,IAMユーザー)の作成	「インフラ管理者」としての権限を持ったIAMユーザー,ITAユーザーを作成します。 ◆実行ユーザー: 「AWS管理者」
<input type="radio"/>	100,009	インフラメンバー(IAMユーザー,ITAユーザー)の作成	「インフラメンバー」としての権限を持ったIAMユーザー,ITAユーザーを作成します。 ◆実行ユーザー: 「AWS管理者」

選択	No.	オペレーション名	実施予定日時	最終実行日時	アクセス権 アクセス許可ロール	備考
<input type="radio"/>	100,001	100,001 共通オペレーション	2021/04/01 12:10			CSテンプレート / 1stモデル
<input type="radio"/>	100,002	100,002 環境A(1stモデル)	2021/04/01 12:10			CSテンプレート / 1stモデル
<input type="radio"/>	100,003	100,003 環境B(1stモデル)	2021/04/01 12:10			CSテンプレート / 1stモデル

フィルタ結果件数: 3

1

2

Conductor実行(2/2)

- 画面下部の実行ボタンを押下する。

The screenshot displays the Exastro Conductor execution interface. The main area shows a workflow diagram on a grid background. The workflow starts with a 'Conductor Start' node (ID 100005) which leads to an 'Ansible Legacy' node (ID 100013) for 'スタック構築・更新 / インフラメンバー / IAMユーザー'. This is followed by an 'Ansible Legacy Role' node (ID 100036) for 'ITAユーザーを一括作成 / インフラメンバー'. The workflow then branches into two paths: one leading to a 'Teams正常通知' node (ID 100026) and another to a 'Teams異常通知' node (ID 100027). Both paths converge at 'Conductor End' nodes (ID 100031).

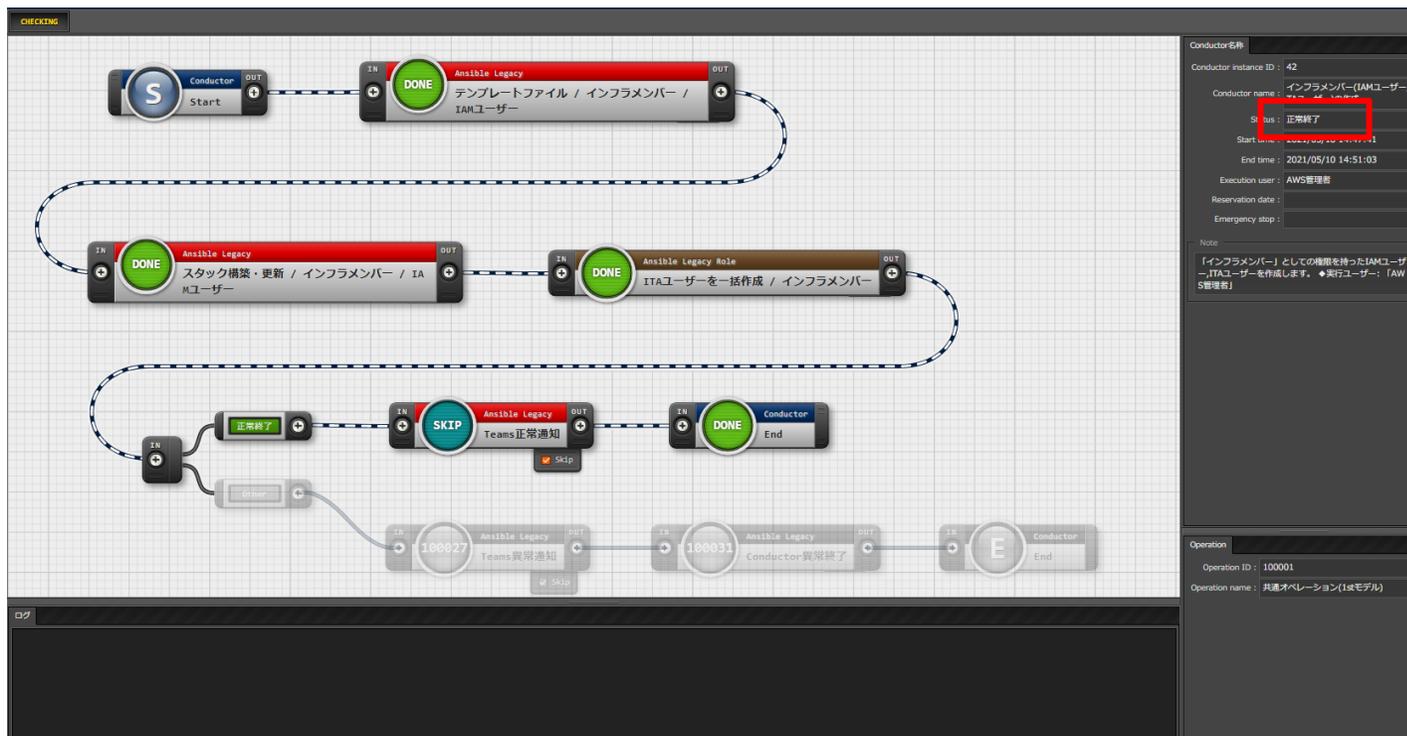
On the right side, there is a panel with the following information:

- Conductor名称**: [Redacted]
- ID**: 100009
- Name**: インフラメンバー(IAMユーザー,ITAユーザー)の作成
- Note**: 「インフラメンバー」としての権限を持ったIAMユーザー,ITAユーザーを作成します。◆実行ユーザー: 「AWS管理者」
- Operation**:
 - Operation ID: 100001
 - Operation name: 共通オペレーション(1stモデル)

At the bottom left, there is a red button labeled '実行' (Execute).

実行結果の確認

- Statusに「正常終了」が表示されていることを確認する。



スタックの確認

- 実行環境アカウントでAWSマネジメントコンソールへログインする。
- CloudFormation スタック一覧画面へ移動する。
- 一連のスタック、リソースが構築されていることを確認する。

■ インフラメンバーへログイン情報を連携

- 「Ⅲ.システム構築・更新手順 / 6.インフラメンバー(1/5)」で登録したログイン情報(ログインID,初回パスワード)を「インフラメンバー」の利用者に連携する。



Ⅲ. システム構築・更新手順 / 7. CloudFormation ロール

共通パラメータの更新

- ITAにAWS管理者でログインする。
- 「基盤管理」>「共通パラメータ」へ移動する。
- オペレーション名="環境-A(1stモデル)"のレコードを更新する。
ページ下部のPOINTを参考にパラメータを入力して「更新」を押下する。

共通パラメータ

履歴		更新	廃止	No	ホスト名	オペレーション					パラメータ						
履歴	更新	廃止			ID	オペレーション名	基準日時	実施予定日時	最終実行日時	システム名	AWS環境		タグ				
											アカウントID	リージョン	システム環境	システム概要	利用者	利用部門	コストセンタ
				2	exastro-it-automation	100,002	環境A(1stモデル)	2021/04/01 12:10	2021/04/01 12:10		000000000000	ap-northeast-1	Dev				

フィルタ結果件数: 1

Excel出力

POINT

変更が必要:
「システム名」…英数字、ハイフンで任意の値を入力
「アカウントID」…数字12桁で入力
任意で変更:
「スタック作成リージョン」
「システム環境」～「コストセンター」

MS Teams Webhookを取得

- 以下の手順はTeams通知機能を使用しない場合は不要。
- 以下の手順はTeamsアプリケーション内で実施する。
- 通知したいチームの「コネクタ」 > 「Incoming Webhook」を選択する。
- 通知するAPIの名前を入力して、「作成」を押下する。

Teamsアプリケーション



参考URL(受信Webhookの取得):

<https://docs.microsoft.com/ja-jp/microsoftteams/platform/webhooks-and-connectors/how-to/add-incoming-webhook>

MS Teamsメニューの更新

- 以下の手順はTeams通知機能を使用しない場合は不要。
- 「通知先管理」 > 「MS Teams」へ移動する。
- 「オペレーション名」が「環境A (1stモデル)」のレコードの更新ボタンを押下する。
- 「Webhook」にTeamsで取得したWebhookを入力して更新ボタンを押下する。

MS Teams

一覧/更新

No	ホスト名*	オペレーション	パラメータ	アクセス権		備考	最終更新
		オペレーション*	Webhook*	設定	アクセス許可ロール		
1	exastro-it-automation	2021/04/01 12:10_100001:共通オペレーション(1stモデル)	<input type="text" value="-----"/>	設定	1stモデル管理者ロール, AWS管理者ロール		自動入力

※*は必須項目です。

1

2

Conductor実行

- 「Conductor」 > 「Conductor作業実行」へ移動する。
- 「Conductor[一覧]」の「インフラメンバー(ITAユーザー,IAMユーザー)の作成」を選択する。
- 「オペレーション[一覧]」から「環境A(1stモデル)」を選択する。

選択	ConductorクラスID	Conductor名称	説明
<input type="radio"/>	100,001	AWS管理者基盤 / 構築・更新	AWS管理者基盤の作成または更新を実行します。 ◆実行ユーザー: 「1stモデル管理者」
<input type="radio"/>	100,002	インフラユーザー基盤 / 構築・更新	インフラユーザー基盤の作成または更新を実行します。 ◆実行ユーザー: 「AWS管理者」
<input type="radio"/>	100,003	CloudFormationロール / 構築・更新	CloudFormation実行用IAMロールの構築・更新を実行します。 ◆実行ユーザー: 「AWS管理者」
<input type="radio"/>	100,004	オートスケールWebシステム / 構築・更新	オートスケールWebシステムの構築・更新を実行します。 ◆実行ユーザー: 「インフラ管理者」
<input type="radio"/>	100,005	セキュリティ付帯機能 / 構築・更新	セキュリティ付帯機能の構築・更新を実行します。 ◆実行ユーザー: 「インフラ管理者」
<input type="radio"/>	100,006	オートスケールWebサーバへPlaybook実行	オートスケールWebシステムのWebサーバへPlaybookを実行します。 ◆実行ユーザー: 「インフラ管理者」
<input type="radio"/>	100,007	AWS管理者(IAMユーザー,ITAユーザー)の作成	「AWS管理者」としての権限を持ったIAMユーザー,ITAユーザーを作成します。 ◆実行ユーザー: 「1stモデル管理者」
<input type="radio"/>	100,008	インフラ管理者(ITAユーザー,IAMユーザー)の作成	「インフラ管理者」としての権限を持ったIAMユーザー,ITAユーザーを作成します。 ◆実行ユーザー: 「AWS管理者」
<input type="radio"/>	100,009	インフラメンバー(IAMユーザー,ITAユーザー)の作成	「インフラメンバー」としての権限を持ったIAMユーザー,ITAユーザーを作成します。 ◆実行ユーザー: 「AWS管理者」



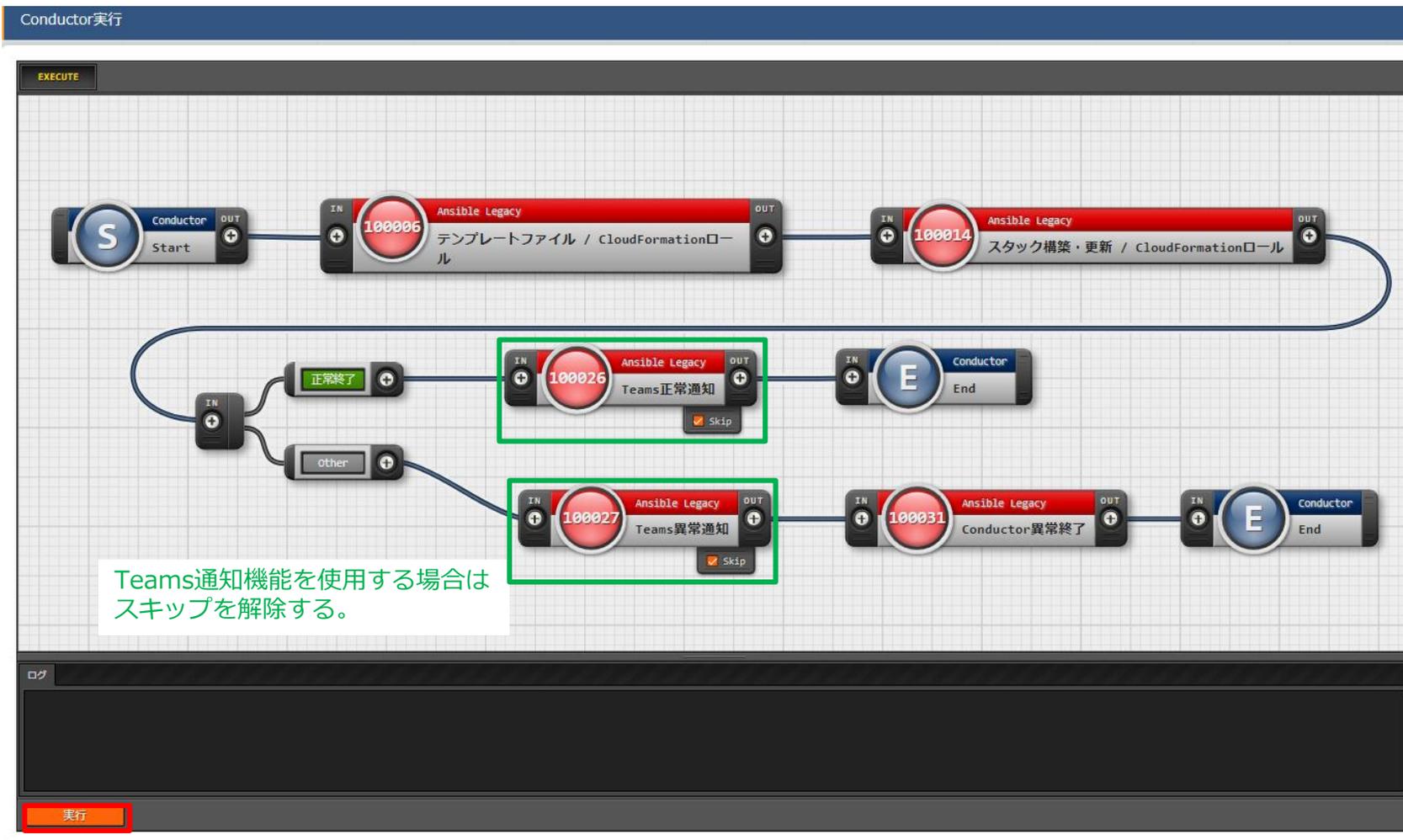
選択	No.	オペレーションID	オペレーション名	実施予定日時	最終実行日時	アクセス権 アクセス許可ロール	備考
<input type="radio"/>	100,001	100,001	共通オペレーション	2021/04/01 12:10			CSテンプレート / 1stモデル
<input type="radio"/>	100,002	100,002	環境A(1stモデル)	2021/04/01 12:10			CSテンプレート / 1stモデル
<input type="radio"/>	100,003	100,003	環境B(1stモデル)	2021/04/01 12:10			CSテンプレート / 1stモデル

フィルタ結果件数: 3



Conductor実行(2/2)

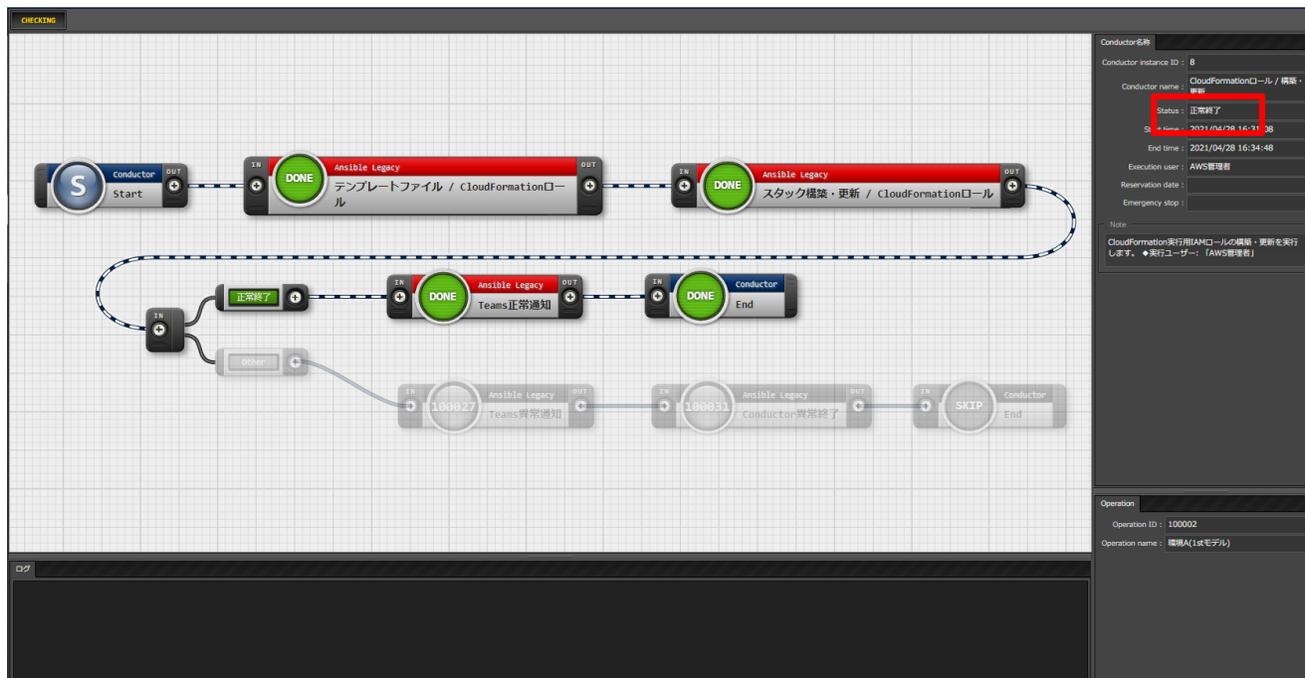
- 画面下部の実行ボタンを押下する。



Teams通知機能を使用する場合はスキップを解除する。

実行結果の確認

- Statusに「正常終了」が表示されていることを確認する。



スタックの確認

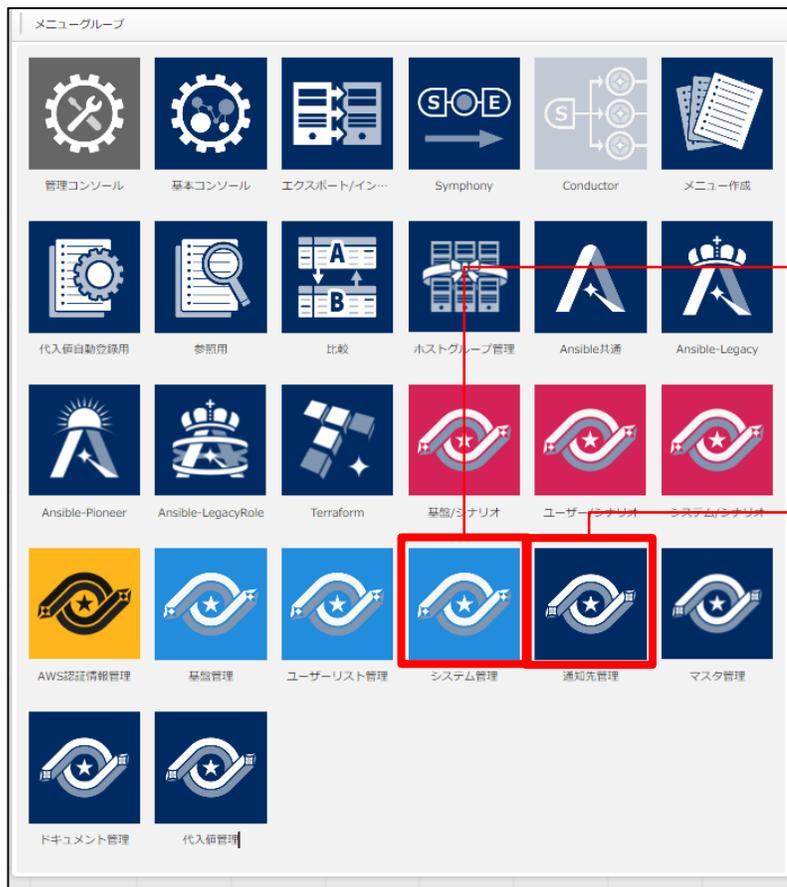
- 実行環境アカウントでAWSマネジメントコンソールへログインする。
- CloudFormation スタック一覧画面へ移動する。
- 一連のスタック、リソースが構築されていることを確認する。

Ⅲ.システム構築・更新手順 / 8.オートスケールWebシステム

システム管理メニューの更新

- 「システム管理」内のメニューのパラメータを更新する。

メニューグループ一覧



システム管理/メニュー一覧

- 「AutoScaleパラメータ」
 - 「S3パラメータ」
 - 「SNSパラメータ」
 - 「CloudTrailパラメータ」
 - 「Networkパラメータ」
 - 「SecurityGroupパラメータ」
 - 「Bastionパラメータ」
 - 「VPCflowlogsパラメータ」
 - 「TrustedAdvisorパラメータ」
 - 「CloudWatchパラメータ」
 - 「WAFパラメータ」
-
- 「通知先管理」 > 「メールアドレス」
「メールアドレス」はSNS通知を受信する場合は変更する。

- 赤字のメニューは更新が必須。
「2.7 AWSの設定」で取得した値を登録する。
- 「MS Teams」はTeams通知機能を使用しない場合は変更不要。

Conductor実行

- 「Conductor」 > 「Conductor作業実行」へ移動する。
- 「Conductor[一覧]」の「オートスケールWebシステム / 構築・更新」を選択する。
- 「オペレーション[一覧]」から「環境A(1stモデル)」を選択する。

選択	ConductorクラスID	Conductor名称	説明
<input type="radio"/>	100,001	AWS管理者基盤 / 構築・更新	AWS管理者基盤の作成または更新を実行します。 ◆実行ユーザー: 「1stモデル管理者」
<input type="radio"/>	100,002	インフラユーザー基盤 / 構築・更新	インフラユーザー基盤の作成または更新を実行します。 ◆実行ユーザー: 「AWS管理者」
<input type="radio"/>	100,003	CloudFormationロール / 構築・更新	CloudFormation実行用IAMロールの構築・更新を実行します。 ◆実行ユーザー: 「AWS管理者」
<input checked="" type="radio"/>	100,004	オートスケールWebシステム / 構築・更新	オートスケールWebシステムの構築・更新を実行します。 ◆実行ユーザー: 「インフラ管理者」
<input type="radio"/>	100,005	セキュリティ付帯機能 / 構築・更新	セキュリティ付帯機能の構築・更新を実行します。 ◆実行ユーザー: 「インフラ管理者」
<input type="radio"/>	100,006	オートスケールWebサーバへPlaybook実行	オートスケールWebシステムのWebサーバへPlaybookを実行します。 ◆実行ユーザー: 「インフラ管理者」
<input type="radio"/>	100,007	AWS管理者(IAMユーザー, ITAユーザー)の作成	「AWS管理者」としての権限を持ったIAMユーザー, ITAユーザーを作成します。 ◆実行ユーザー: 「1stモデル管理者」
<input type="radio"/>	100,008	インフラ管理者(ITAユーザー, IAMユーザー)の作成	「インフラ管理者」としての権限を持ったIAMユーザー, ITAユーザーを作成します。 ◆実行ユーザー: 「AWS管理者」
<input type="radio"/>	100,009	インフラメンバー(IAMユーザー, ITAユーザー)の作成	「インフラメンバー」としての権限を持ったIAMユーザー, ITAユーザーを作成します。 ◆実行ユーザー: 「AWS管理者」

選択	No.	オペレーションID	オペレーション名	実施予定日時	最終実行日時	アクセス権 アクセス許可ロール	備考
<input type="radio"/>	100,001	100,001	共通オペレーション	2021/04/01 12:10			CSテンプレート / 1stモデル
<input checked="" type="radio"/>	100,002	100,002	環境A(1stモデル)	2021/04/01 12:10			CSテンプレート / 1stモデル
<input type="radio"/>	100,003	100,003	環境B(1stモデル)	2021/04/01 12:10			CSテンプレート / 1stモデル

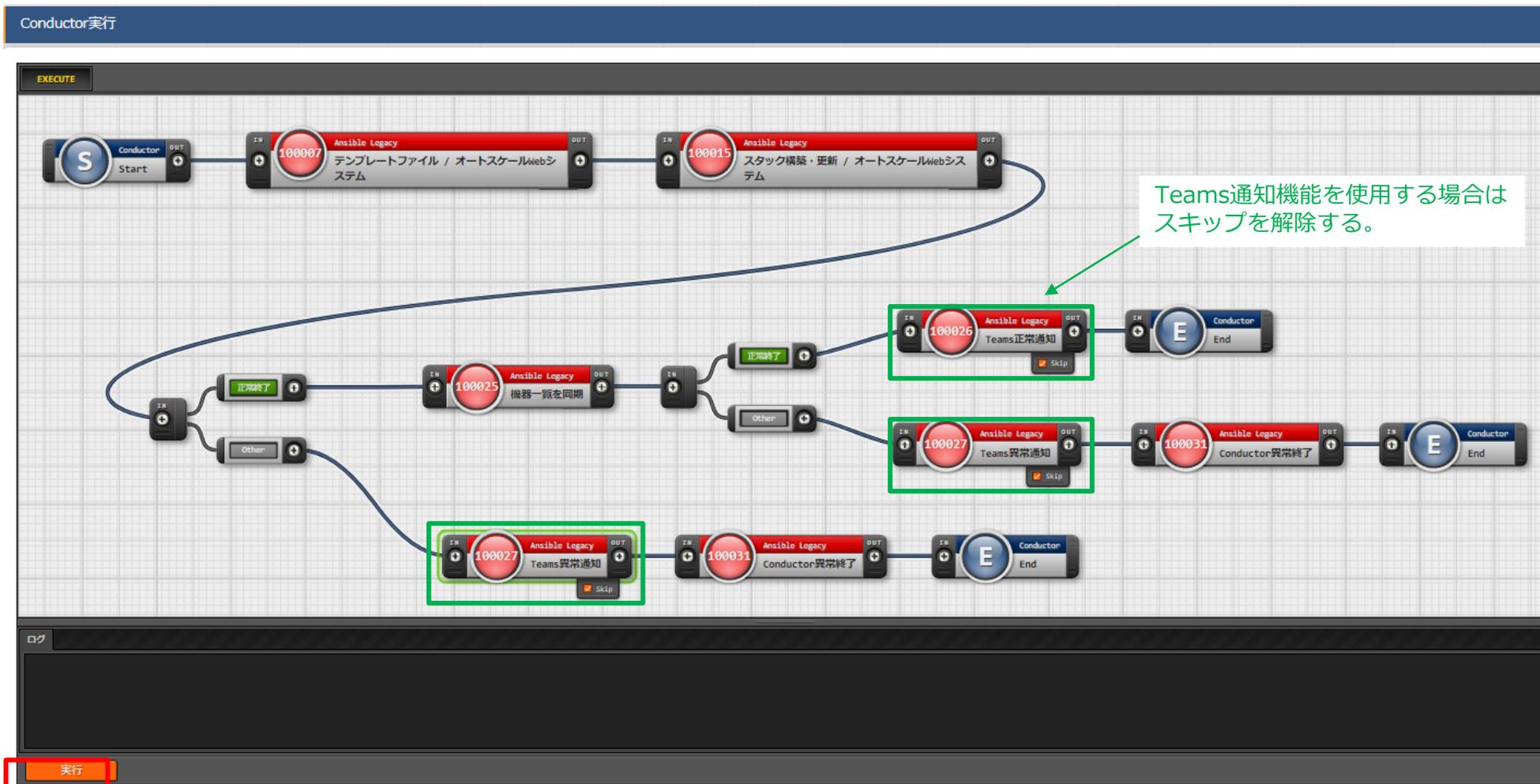
フィルタ結果件数: 3

1

2

Conductor実行(2/2)

- 画面下部の実行ボタンを押下する。



実行結果の確認

- Statusに「正常終了」が表示されていることを確認する。

The screenshot displays the Exastro console interface. The main workspace shows a workflow diagram with several nodes. The '正常終了' (Normal End) node is highlighted in green, indicating successful completion. The right sidebar provides details for the conductor, including its name 'オートスケールWebシステム / 構築' and its status '正常終了', which is highlighted with a red box. The bottom right section shows the operation ID '100002' and the operation name '構築A(1台モデル)'.



スタックの確認

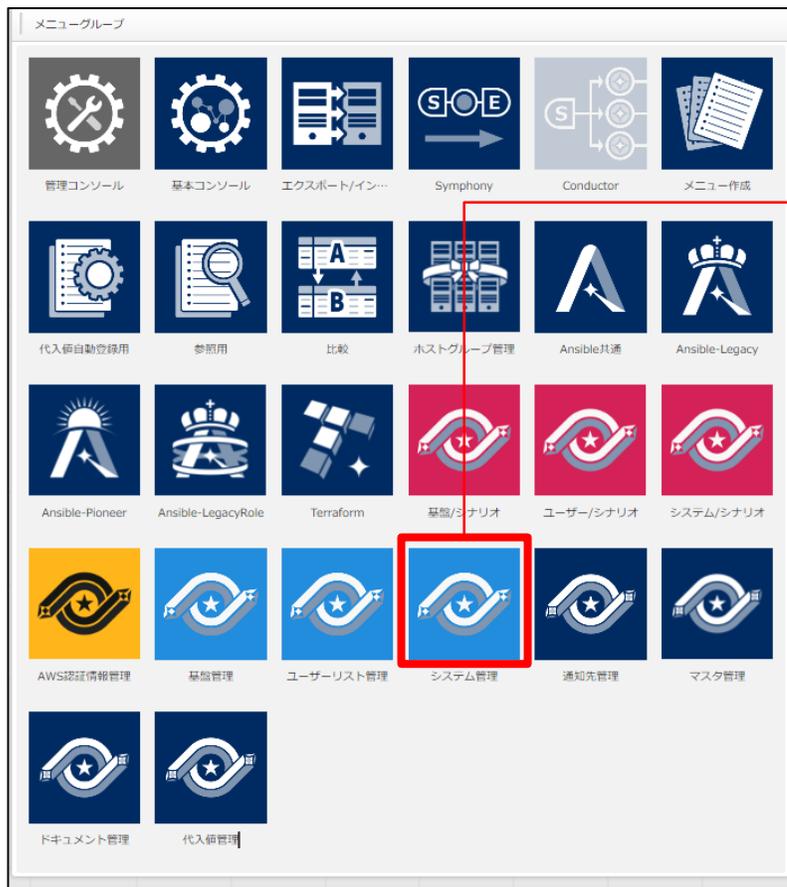
- 実行環境アカウントでAWSマネジメントコンソールへログインする。
- CloudFormation スタック一覧画面へ移動する。
- 一連のスタック、リソースが構築されていることを確認する。

Ⅲ. システム構築・更新手順 / 9. セキュリティ付帯機能

システム管理メニューの更新

- 「システム管理」内のメニューのパラメータを必要に応じて更新する。

メニューグループ一覧



システム管理/メニュー一覧

- 「SecurityHubパラメータ」
- 「Configパラメータ」
- 「GuardDutyパラメータ」

Conductor実行(1/2)

- 「Conductor」 > 「Conductor作業実行」へ移動する。
- 「Conductor[一覧]」の「セキュリティ付帯機能 / 構築・更新」を選択する。
- 「オペレーション[一覧]」から「環境A(1stモデル)」を選択する。

選択	ConductorクラスID	Conductor名称	説明
<input type="radio"/>	100,001	AWS管理者基盤 / 構築・更新	AWS管理者基盤の作成または更新を実行します。 ◆実行ユーザー: 「1stモデル管理者」
<input type="radio"/>	100,002	インフラユーザー基盤 / 構築・更新	インフラユーザー基盤の作成または更新を実行します。 ◆実行ユーザー: 「AWS管理者」
<input type="radio"/>	100,003	CloudFormationロール / 構築・更新	CloudFormation実行用IAMロールの構築・更新を実行します。 ◆実行ユーザー: 「AWS管理者」
<input type="radio"/>	100,004	オートスケールWebシステム / 構築・更新	オートスケールWebシステムの構築・更新を実行します。 ◆実行ユーザー: 「インフラ管理者」
<input type="radio"/>	100,005	セキュリティ付帯機能 / 構築・更新	セキュリティ付帯機能の構築・更新を実行します。 ◆実行ユーザー: 「インフラ管理者」
<input type="radio"/>	100,006	オートスケールWebサーバへPlaybook実行	オートスケールWebシステムのWebサーバへPlaybookを実行します。 ◆実行ユーザー: 「インフラ管理者」
<input type="radio"/>	100,007	AWS管理者(IAMユーザー, ITAユーザー)の作成	「AWS管理者」としての権限を持ったIAMユーザー, ITAユーザーを作成します。 ◆実行ユーザー: 「1stモデル管理者」
<input type="radio"/>	100,008	インフラ管理者(ITAユーザー, IAMユーザー)の作成	「インフラ管理者」としての権限を持ったIAMユーザー, ITAユーザーを作成します。 ◆実行ユーザー: 「AWS管理者」
<input type="radio"/>	100,009	インフラメンバー(IAMユーザー, ITAユーザー)の作成	「インフラメンバー」としての権限を持ったIAMユーザー, ITAユーザーを作成します。 ◆実行ユーザー: 「AWS管理者」

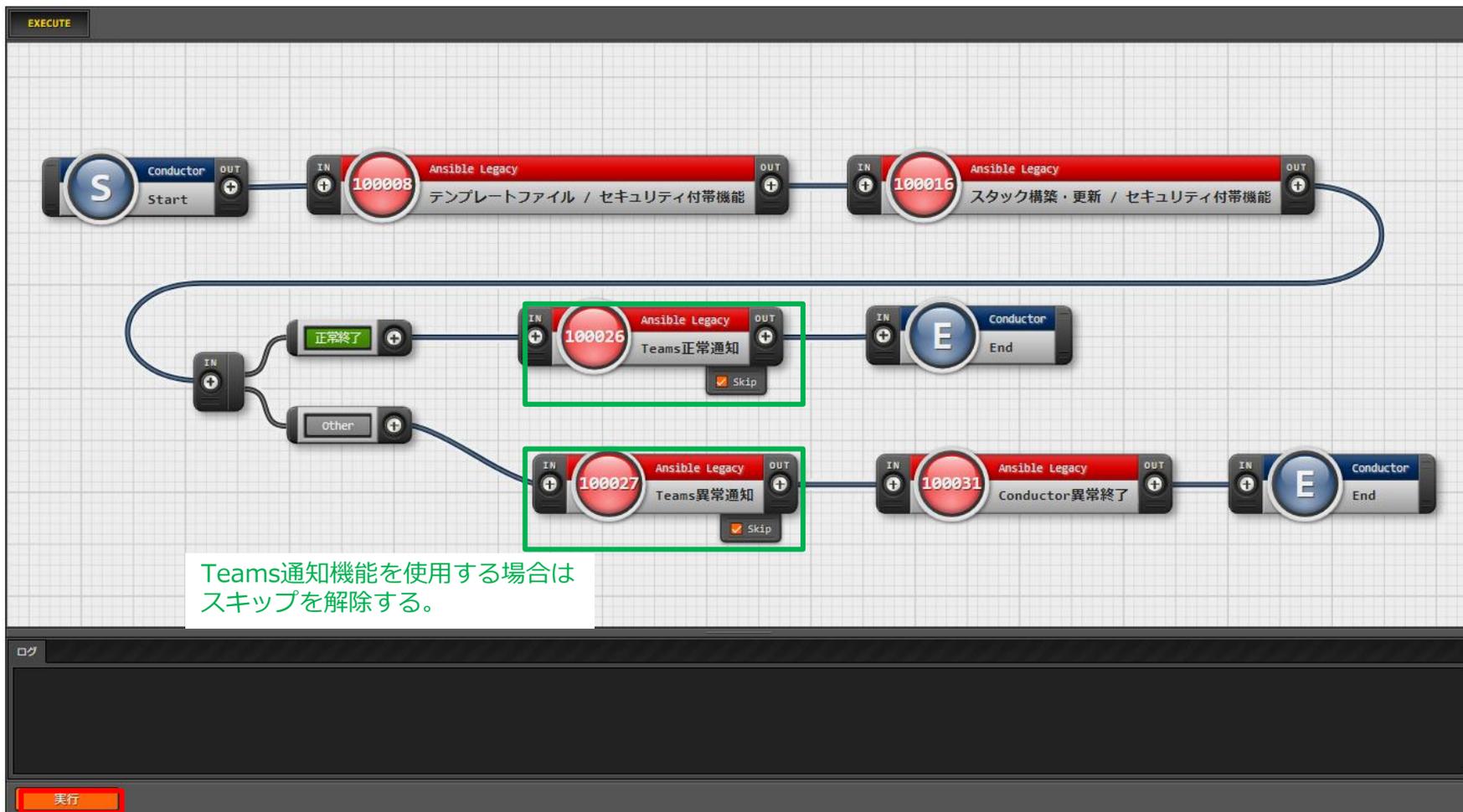
選択	No.	オペレーションID	オペレーション名	実施予定日時	最終実行日時	アクセス権 アクセス許可ロール	備考
<input type="radio"/>	100,001	100,001	共通オペレーション	2021/04/01 12:10			CSテンプレート / 1stモデル
<input type="radio"/>	100,002	100,002	環境A(1stモデル)	2021/04/01 12:10			CSテンプレート / 1stモデル
<input type="radio"/>	100,003	100,003	環境B(1stモデル)	2021/04/01 12:10			CSテンプレート / 1stモデル

フィルタ結果件数: 3



Conductor実行(2/2)

- 画面下部の実行ボタンを押下する。



Teams通知機能を使用する場合はスキップを解除する。

実行結果の確認

- Statusに「正常終了」が表示されていることを確認する。

The screenshot displays the AWS CloudFormation console interface. The main area shows a workflow diagram with nodes for 'Start', 'Ansible Legacy' (twice), and 'End'. The 'Ansible Legacy' nodes are marked 'DONE'. Below this, a '正常終了' (Completed) status is shown. The right-hand pane provides details for the 'Conductor' instance, including its ID, name, and status. The status is highlighted with a red box and reads '正常終了'. The 'Note' section contains instructions in Japanese regarding the security feature update.

スタックの確認

- 実行環境アカウントでAWSマネジメントコンソールへログインする。
- CloudFormation スタック一覧画面へ移動する。
- 一連のスタック、リソースが構築されていることを確認する。

Ⅲ.システム構築・更新手順 / 10.WebサーバへPlaybook実行

ファイル管理のキーペアを変更

- AWS管理コンソールで「踏み台サーバ」「Webサーバ」で使用するキーペア(.pem)を作成してダウンロードしておく。
- 「インフラ管理者」でExastro ITAへログインする。
- 「Ansible共通」>「ファイル管理」へ移動する。
- 「CPF_KEY_PAIR_BASTION」「CPF_KEY_PAIR_WEB」にAWSからダウンロードした「踏み台サーバ」「Webサーバ」のキーペアファイルを登録する。

ファイル管理

履歴	更新	廃止	素材ID	ファイル埋込変数名	ファイル素材	アクセス権	備考	最終更新日時	最終更新者
						アクセス許可ロール			
履歴	更新	廃止	100,005	CPF_KEY_PAIR_BASTION	dummy_key		踏み台サーバのキーペア	2021/04/26 13:07:03	1stモデル管理者
履歴	更新	廃止	100,006	CPF_KEY_PAIR_WEB	dummy_key		WEBサーバのキーペア	2021/04/26 13:07:16	1stモデル管理者

フィルタ結果件数: 2

Excel出力

ファイル管理の画像ファイルを変更

- 「Ansible共通」 > 「ファイル管理」 へ移動する。
- 「CPF_IMAGE_FILE」 の画像ファイルを任意の画像ファイル(.png, .jpg)に変更する。(そのままでも可)

ファイル管理

履歴	更新	廃止	素材ID	ファイル埋込変数名	ファイル素材	アクセス権 アクセス許可ロール	備考	最終更新日時	最終更新者
履歴	更新	廃止	100,002	CPF_IMAGE_FILE	exastro-logo.png	1stモデル管理者ロール,インフラ管理者ロール,インフラメンバーロール	Webサーバの表示用画像	2021/05/01 00:00:00	1stモデル管理者

フィルタ結果件数: 1

Excel出力

Conductor実行(1/3)

- 「Conductor」 > 「Conductor作業実行」へ移動する。
- 「Conductor[一覧]」の「オートスケールWebサーバへPlaybook実行」を選択する。
- 「オペレーション[一覧]」から「環境A(1stモデル)」を選択する。

選択	ConductorクラスID	Conductor名称	説明
<input type="radio"/>	100,001	AWS管理者基盤 / 構築・更新	AWS管理者基盤の作成または更新を実行します。 ◆実行ユーザー: 「1stモデル管理者」
<input type="radio"/>	100,002	インフラユーザー基盤 / 構築・更新	インフラユーザー基盤の作成または更新を実行します。 ◆実行ユーザー: 「AWS管理者」
<input type="radio"/>	100,003	CloudFormationロール / 構築・更新	CloudFormation実行IAMロールの構築・更新を実行します。 ◆実行ユーザー: 「AWS管理者」
<input type="radio"/>	100,004	オートスケールWebシステム / 構築・更新	オートスケールWebシステムの構築・更新を実行します。 ◆実行ユーザー: 「インフラ管理者」
<input type="radio"/>	100,005	セキュリティ付帯機能 / 構築・更新	セキュリティ付帯機能の構築・更新を実行します。 ◆実行ユーザー: 「インフラ管理者」
<input type="radio"/>	100,006	オートスケールWebサーバへPlaybook実行	オートスケールWebシステムのWebサーバへPlaybookを実行します。 ◆実行ユーザー: 「インフラ管理者」
<input type="radio"/>	100,007	AWS管理者(IAMユーザー, ITAユーザー)の作成	「AWS管理者」としての権限を持ったIAMユーザー, ITAユーザーを作成します。 ◆実行ユーザー: 「1stモデル管理者」
<input type="radio"/>	100,008	インフラ管理者(ITAユーザー, IAMユーザー)の作成	「インフラ管理者」としての権限を持ったIAMユーザー, ITAユーザーを作成します。 ◆実行ユーザー: 「AWS管理者」
<input type="radio"/>	100,009	インフラメンバー(IAMユーザー, ITAユーザー)の作成	「インフラメンバー」としての権限を持ったIAMユーザー, ITAユーザーを作成します。 ◆実行ユーザー: 「AWS管理者」

選択	No.	オペレーションID	オペレーション名	実施予定日時	最終実行日時	アクセス権 アクセス許可ロール	備考
<input type="radio"/>	100,001	100,001	共通オペレーション	2021/04/01 12:10			CSテンプレート / 1stモデル
<input type="radio"/>	100,002	100,002	環境A(1stモデル)	2021/04/01 12:10			CSテンプレート / 1stモデル
<input type="radio"/>	100,003	100,003	環境B(1stモデル)	2021/04/01 12:10			CSテンプレート / 1stモデル

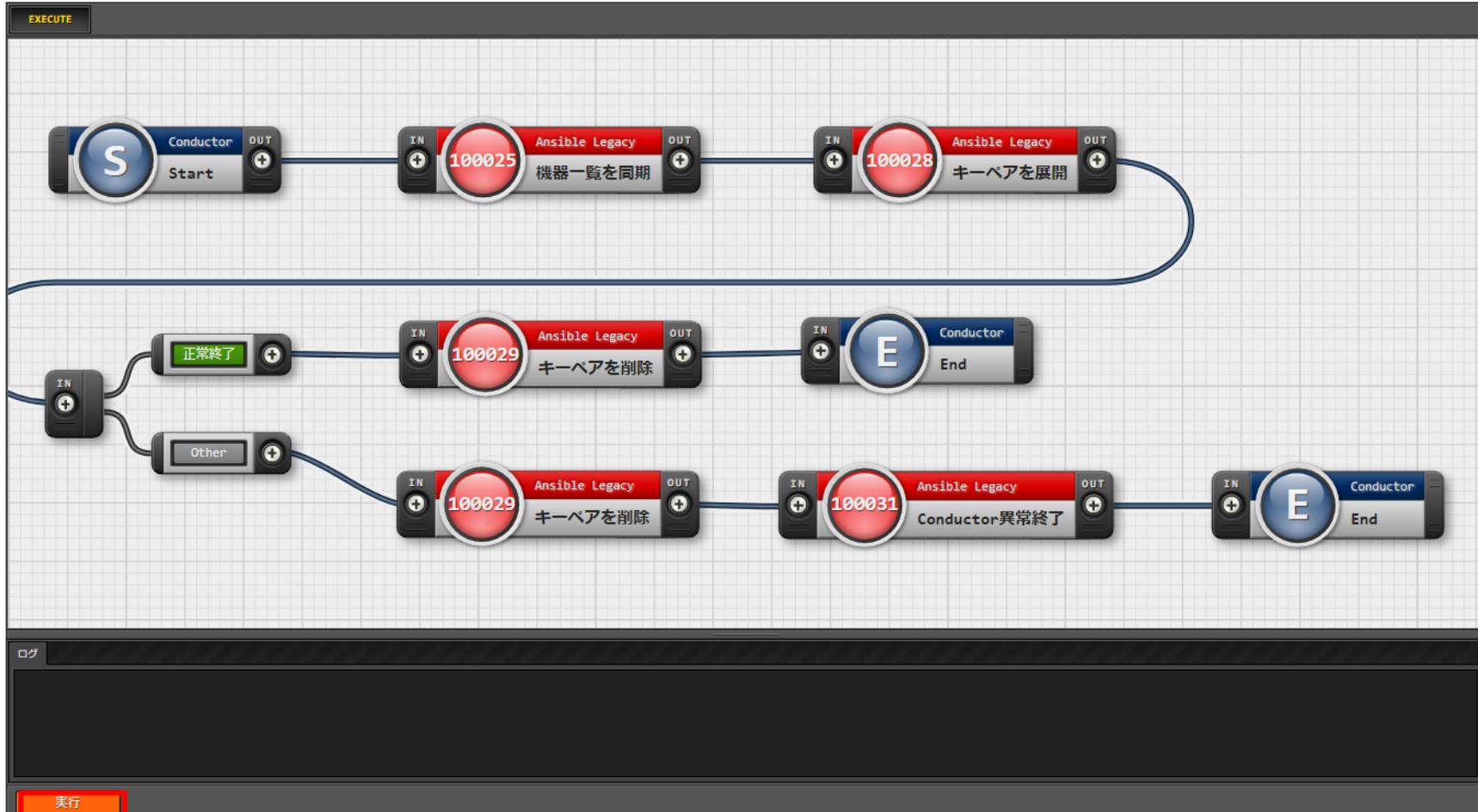
フィルタ結果件数: 3

1

2

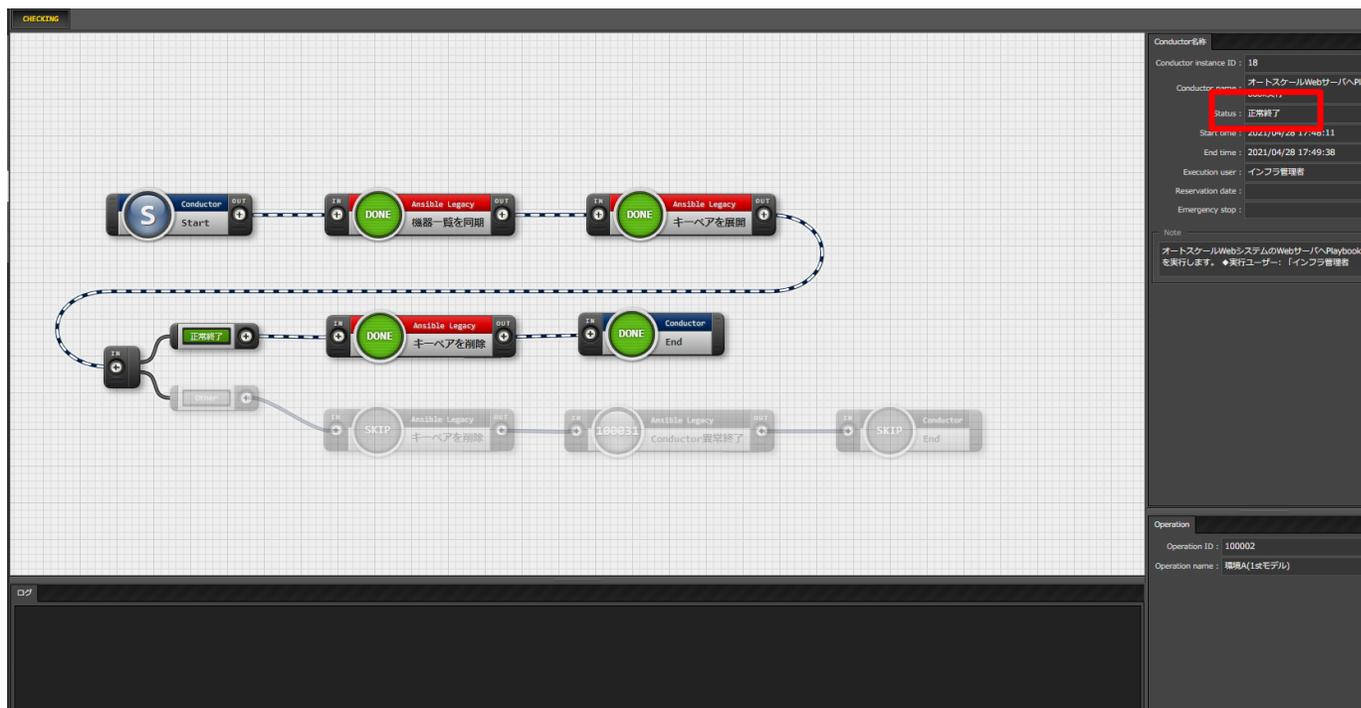
Conductor実行(2/3)

- 画面下部の実行ボタンを押下する。



Conductor実行(3/3)

- Statusに「正常終了」が表示されていることを確認する。



結果の確認

- AWS管理コンソールでELBのDNS名を確認する。
(Teams通知機能を有効にしている場合は、オートスケールWebシステム構築完了時に、DNS名が通知される)
- ブラウザでELB DNS名にアクセスする。
- 「Ⅲ.システム構築・更新手順 / 10.WebサーバへPlaybook実行(2/5)」で登録した画像ファイルが表示されていることを確認する

IV. システム削除手順

IV. システム削除手順 / 1. はじめに

IV. システム削除手順 / 1. はじめに

はじめに

- 本章では構築したスタックをConductorから削除する手順を示す。
- 構築/更新と異なり削除の際はパラメータの変更は不要。
実行するConductorクラスを削除用を選択することでシステムまたは環境の削除が可能。

削除時の留意点

- 構築/更新を実行した際の「AWSアカウントID」「システム名」などのパラメータを変更していないこと。
(例)構築/更新時のプロジェクトコードと削除時のプロジェクトコードが異なると、存在していないスタックに対して削除が実行されるため。その場合はどのスタックも削除されない。
- スタック削除保護を有効にしている場合は、Conductorからの削除は不可。
- ELBなどのAWSリソースに対して削除保護を有効にしている場合は、Conductorからの削除は不可。

実行順序

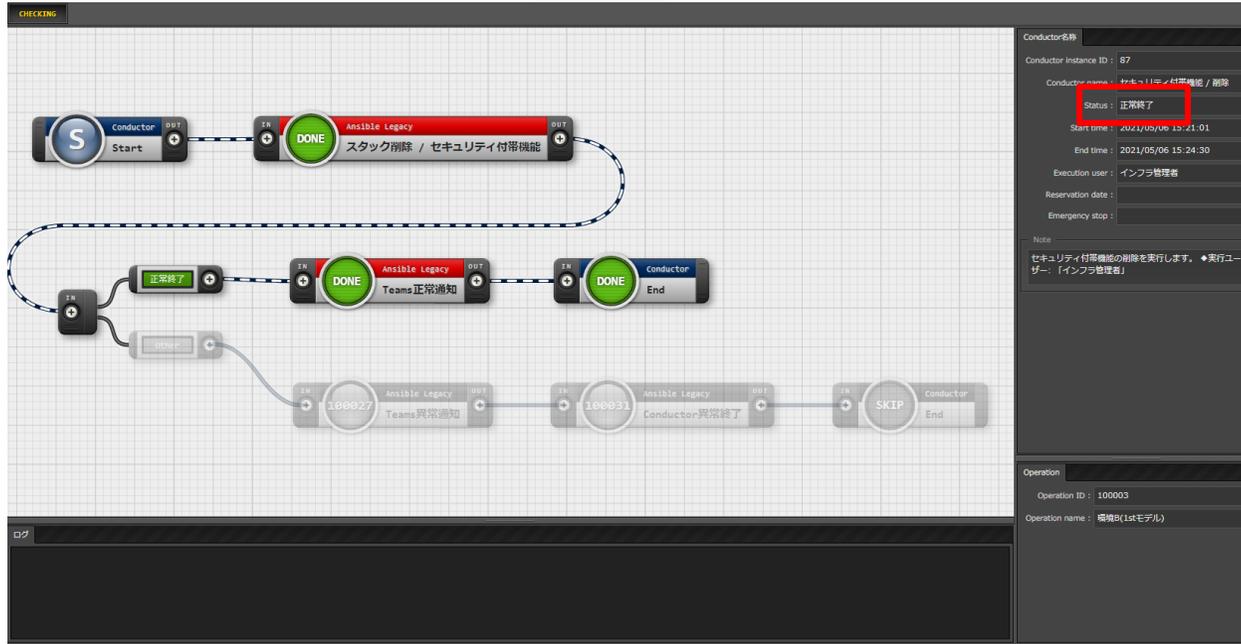
- 構築した順序と逆の順序で削除を実行する。
- 削除順序は以下の通り。

セキュリティ付帯機能→オートスケールWebシステム

→インフラメンバー・インフラ管理者→インフラユーザー基盤→AWS管理者→AWS管理者基盤

削除手順

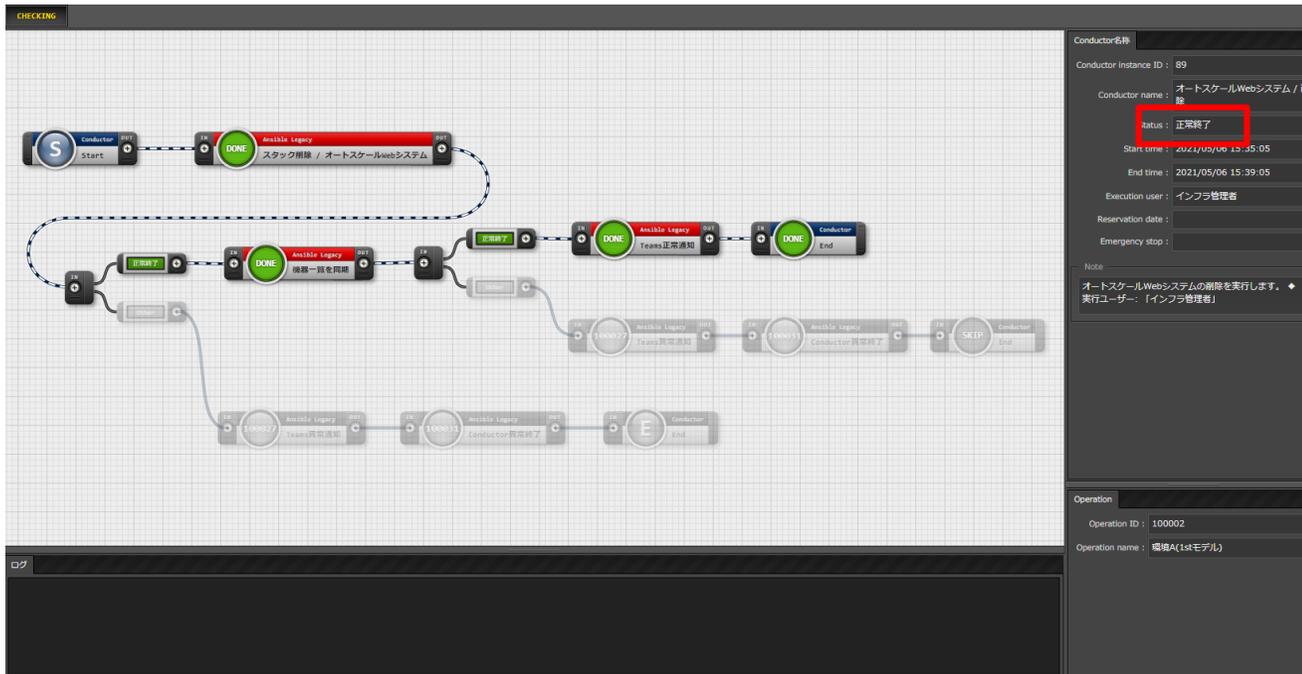
- インフラ管理者でログインする。
- Conductor > Conductor作業実行へ移動する。
- Conductor 「**セキュリティ付帯機能 / 削除**」
オペレーション「環境A(1stモデル)」を選択し、Conductorを実行する。
- Conductor正常終了後、AWS管理コンソールでスタックが削除されたことを確認する。



- Conductor正常終了後、AWS管理コンソールでスタックが削除されたことを確認する。

削除手順

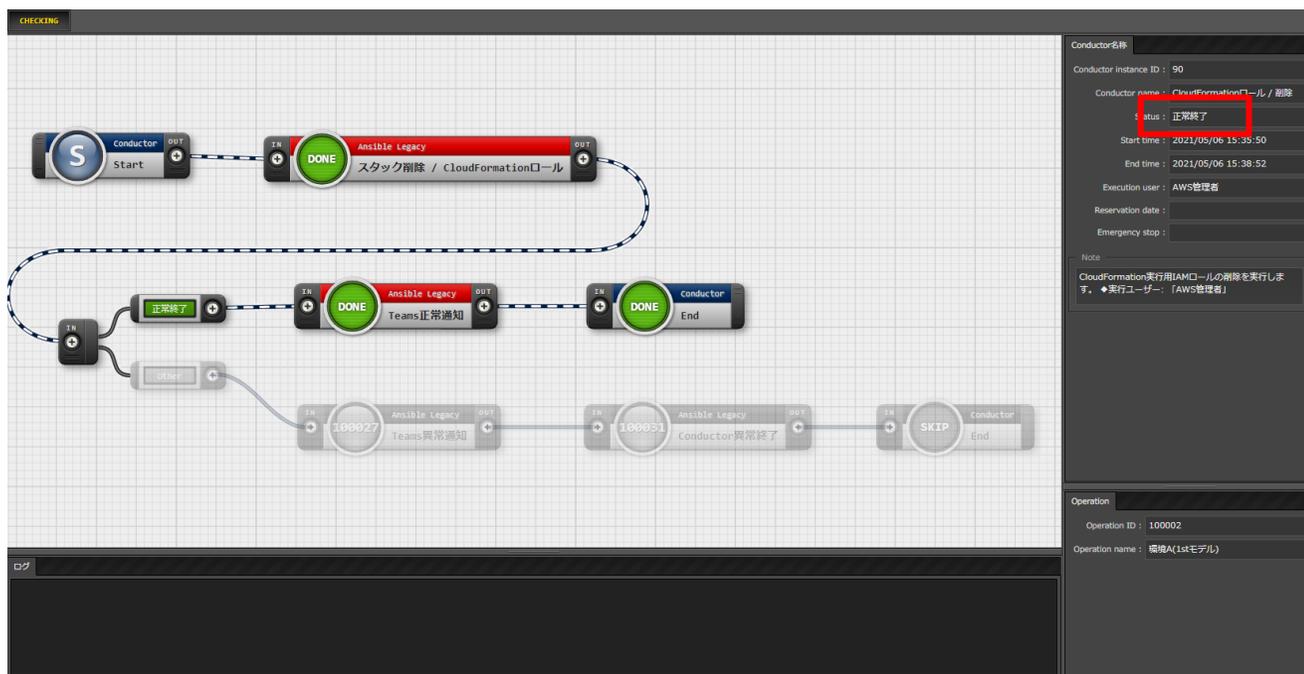
- インフラ管理者でログインする。
- Conductor > Conductor作業実行へ移動する。
- Conductor 「**オートスケールWebシステム / 削除**」
オペレーション「環境A(1stモデル)」を選択し、Conductorを実行する。
- Conductor正常終了後、AWS管理コンソールでスタックが削除されたことを確認する。



- Conductor正常終了後、AWS管理コンソールでスタックが削除されたことを確認する。

削除手順

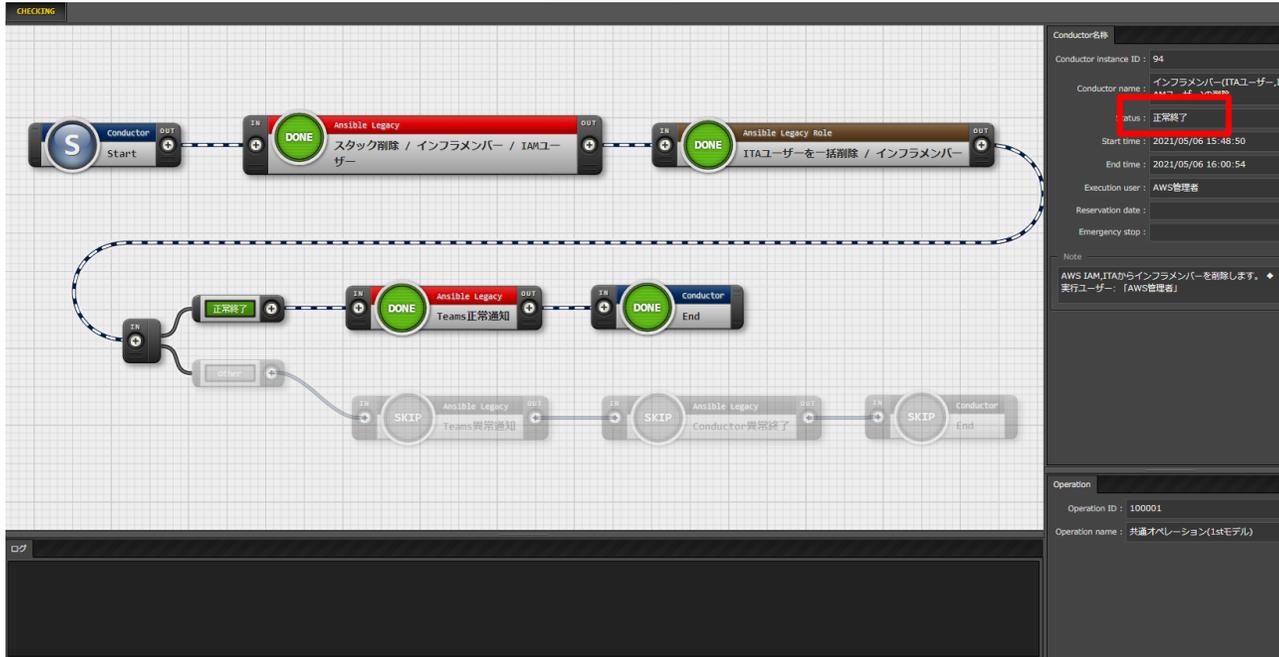
- AWS管理者でログインする。
- Conductor > Conductor作業実行へ移動する。
- Conductor 「CloudFormationロール / 削除」
オペレーション「環境A(1stモデル)」を選択し、Conductorを実行する。
- Conductor正常終了後、AWS管理コンソールでスタックが削除されたことを確認する。



- Conductor正常終了後、AWS管理コンソールでスタックが削除されたことを確認する。

削除手順

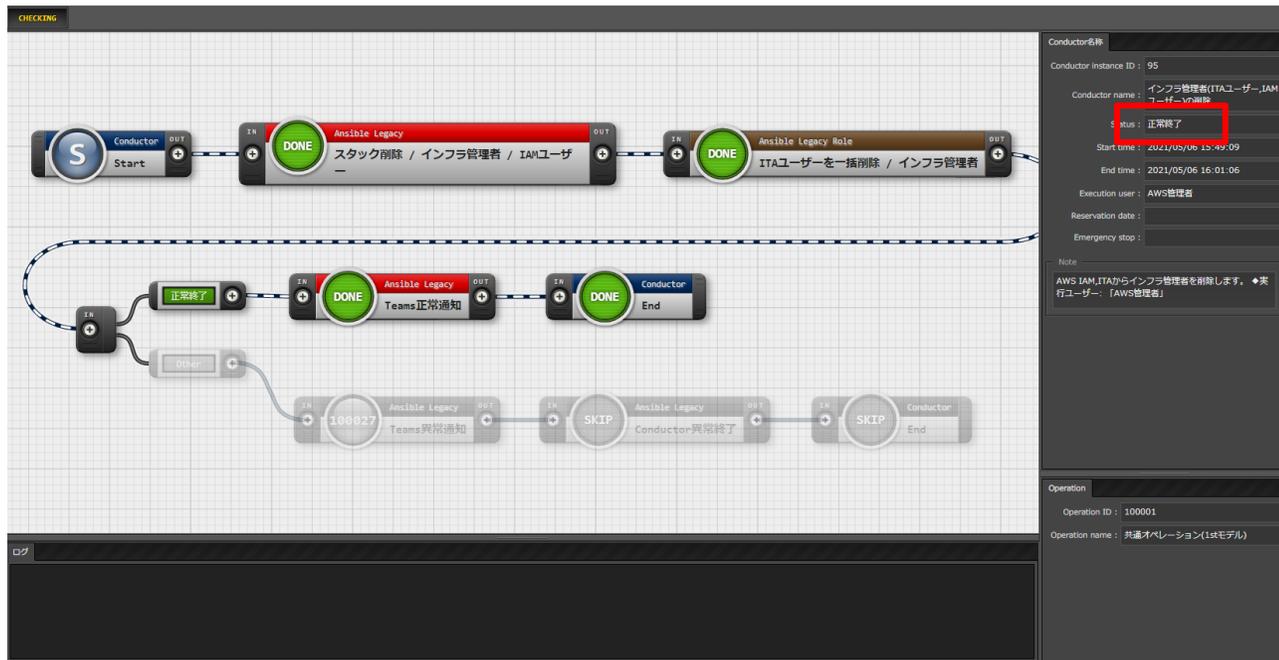
- AWS管理者でログインする。
- Conductor > Conductor作業実行へ移動する。
- Conductor 「インフラメンバー(ITAユーザー,IAMユーザー)の削除」オペレーション「共通オペレーション」を選択し、Conductorを実行する。
- Conductor正常終了後、AWS管理コンソールでスタックが削除されたことを確認する。



- Conductor正常終了後、AWS管理コンソールでスタックが削除されたことを確認する。

削除手順

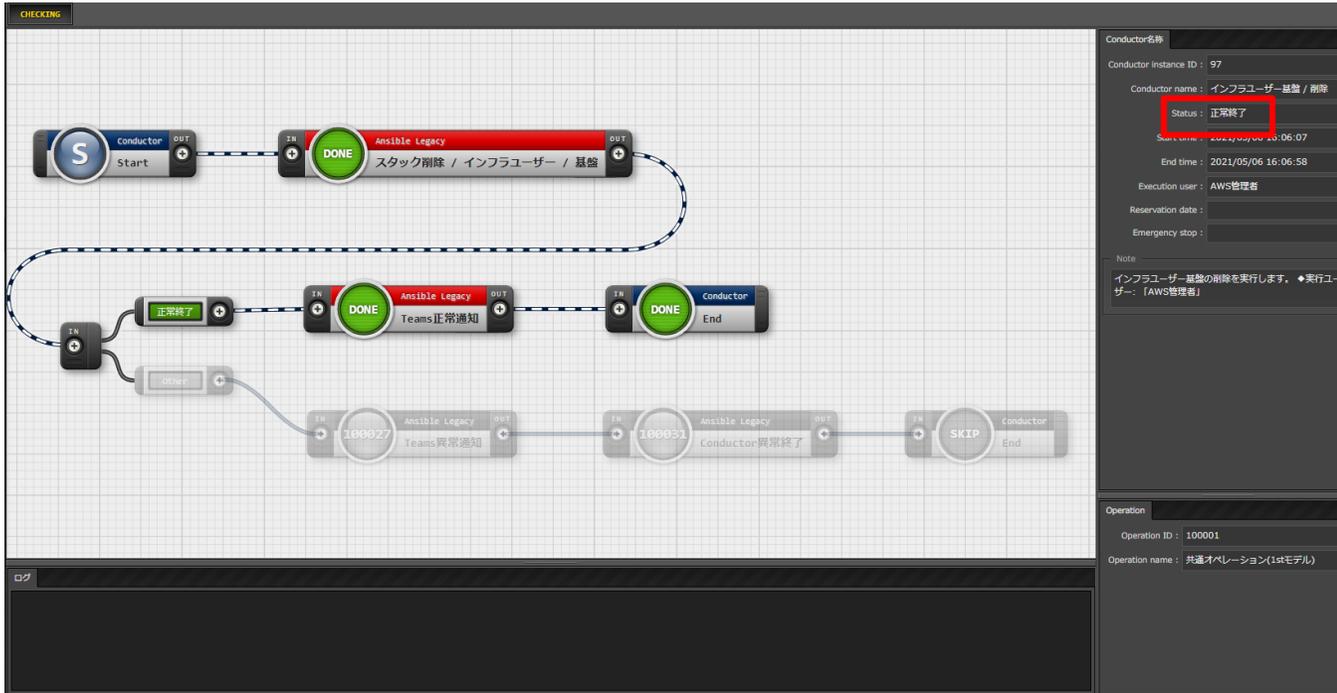
- AWS管理者でログインする。
- Conductor > Conductor作業実行へ移動する。
- Conductor 「**インフラ管理者(ITAユーザー,IAMユーザー)の削除**」オペレーション「共通オペレーション」を選択し、Conductorを実行する。
- Conductor正常終了後、AWS管理コンソールでスタックが削除されたことを確認する。



- Conductor正常終了後、AWS管理コンソールでスタックが削除されたことを確認する。

削除手順

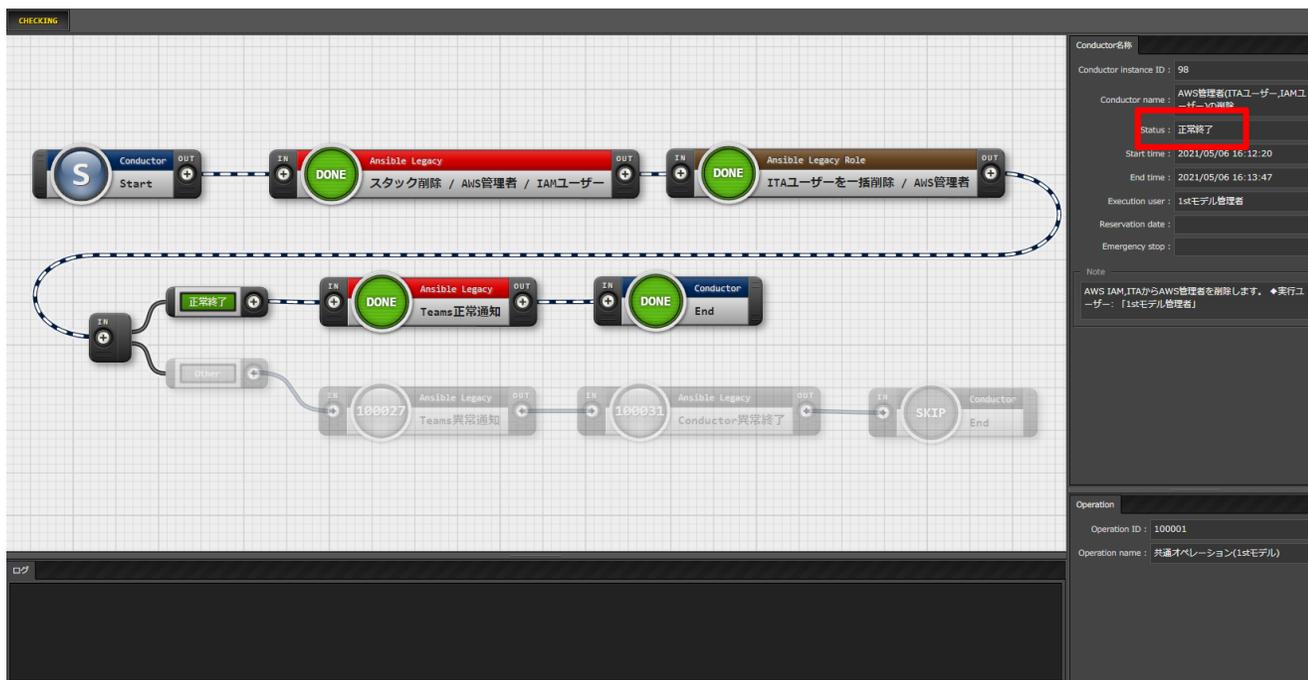
- AWS管理者でログインする。
- Conductor > Conductor作業実行へ移動する。
- Conductor 「インフラユーザー基盤 / 削除」
オペレーション「共通オペレーション」を選択し、Conductorを実行する。
- Conductor正常終了後、AWS管理コンソールでスタックが削除されたことを確認する。



- Conductor正常終了後、AWS管理コンソールでスタックが削除されたことを確認する。

削除手順

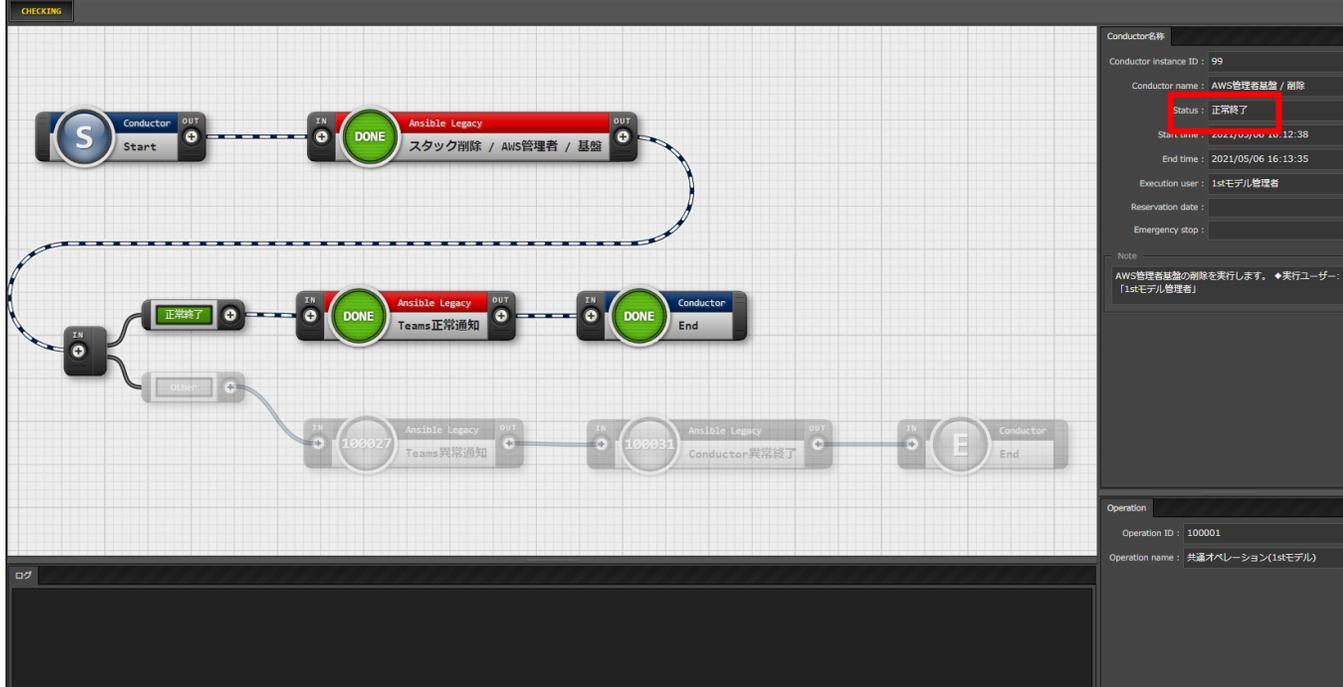
- AWS管理者でログインする。
- Conductor > Conductor作業実行へ移動する。
- Conductor 「AWS管理者(ITAユーザー,IAMユーザー)の削除」
オペレーション「共通オペレーション」を選択し、Conductorを実行する。
- Conductor正常終了後、AWS管理コンソールでスタックが削除されたことを確認する。



- Conductor正常終了後、AWS管理コンソールでスタックが削除されたことを確認する。

削除手順

- AWS管理者でログインする。
- Conductor > Conductor作業実行へ移動する。
- Conductor 「AWS管理者基盤 / 削除」
オペレーション「共通オペレーション」を選択して、Conductorを実行する。
- Conductor正常終了後、AWS管理コンソールでスタックが削除されたことを確認する。



- Conductor正常終了後、AWS管理コンソールでスタックが削除されたことを確認する。

V .Conductor



はじめに

- この章ではConductorの「名称」「実行順序」「実行ユーザー」「[参照メニュー](#)」の一覧を記載する。
- オペレーションを新規登録した際は、
次スライドの「Conductor一覧」の「参照メニュー」に記載されているメニューに対してパラメータを登録する。

オペレーションを新規登録してConductorを実行する手順

- 「オペレーション一覧」メニューでオペレーションを新規登録する。
- Conductor実行時に必要なパラメータを登録するため、
スライド「2.クラス一覧」の実行したConductorの「参照メニュー」に注目する。
- 「参照メニュー」記載されているメニューに対して、
新規追加したオペレーションを使用してパラメータを登録する。
- パラメータ登録後、Conductorを実行する。
Conductor実行時に、オペレーション選択欄で新規追加したオペレーションを選択してConductorを実行する。

V.Conductor / 2.クラス一覧(1/4)

構築・更新用Conductorクラス一覧①

【凡例】「メニューグループ名」>「メニュー名」

ID	Conductor名称	実行順序	実行ユーザー名	参照メニュー
100,001	AWS管理者基盤 / 構築・更新	1	1stモデル管理者	<ul style="list-style-type: none">「基盤/シナリオ」>「AWS管理者基盤シナリオ」「基盤管理」>「AWS管理者・基盤」「基盤管理」>「共通パラメータ」「通知先管理」>「MS Teams」「AWS認証情報管理」>「1stモデル管理者」
100,002	AWS管理者(ITAユーザー,IAMユーザー)/ 構築	2	1stモデル管理者	<ul style="list-style-type: none">「ユーザー/シナリオ」>「AWS管理者シナリオ」「ユーザーリスト管理」>「AWS管理者リスト」「AWS認証情報管理」>「1st管理者」
100,003	インフラユーザー基盤 / 構築・更新	3	AWS管理者	<ul style="list-style-type: none">「基盤/シナリオ」>「インフラユーザー基盤シナリオ」「基盤管理」>「インフラユーザー・基盤」「基盤管理」>「共通パラメータ」「通知先管理」>「MS Teams」「AWS認証情報管理」>「AWS管理者」
100,008	インフラ管理者(ITAユーザー,IAMユーザー) / 構築	4	AWS管理者	<ul style="list-style-type: none">「ユーザー/シナリオ」>「インフラ管理者シナリオ」「ユーザーリスト管理」>「インフラ管理者リスト」「AWS認証情報管理」>「AWS管理者」
100,009	インフラメンバー(ITAユーザー,IAMユーザー) / 構築	5	AWS管理者	<ul style="list-style-type: none">「ユーザー/シナリオ」>「インフラメンバーシナリオ」「ユーザーリスト管理」>「インフラメンバーリスト」「AWS認証情報管理」>「AWS管理者」

Ⅲ.Conductor / 2.クラス一覧(2/4)

構築・更新用Conductorクラス一覧②

【凡例】「メニューグループ名」>「メニュー名」

ID	Conductor名称	実行順序	実行ユーザー名	参照メニュー
100,003	CloudFormationロール / 構築・更新	6	AWS管理者	<ul style="list-style-type: none"> 「基盤管理」>「共通パラメータ」 「システム/シナリオ」>「CloudFormationロール」 「通知先管理」>「MS Teams」 「AWS認証情報管理」>「AWS管理者」
100,004	オートスケールWebシステム / 構築・更新	7	インフラ管理者	<ul style="list-style-type: none"> 「基盤管理」>「共通パラメータ」 「システム/シナリオ」>「オートスケールWebシステム」 「システム管理」>「AutoScaleパラメータ」 「システム管理」>「S3パラメータ」 「システム管理」>「SNSパラメータ」 「システム管理」>「CloudTrailパラメータ」 「システム管理」>「Networkパラメータ」 「システム管理」>「SecurityGroupパラメータ」 「システム管理」>「Bastionパラメータ」 「システム管理」>「VPCflorlogsパラメータ」 「システム管理」>「TrustedAdvisorパラメータ」 「システム管理」>「CloudWatchパラメータ」 「システム管理」>「WAFパラメータ」 「通知先管理」>「メールアドレス」 「通知先管理」>「MS Teams」 「AWS認証情報管理」>「インフラ管理者」
100,005	セキュリティ付帯機能 / 構築・更新	8	インフラ管理者	<ul style="list-style-type: none"> 「基盤管理」>「共通パラメータ」 「システム/シナリオ」>「セキュリティ付帯機能」 「システム管理」>「SecurityHubパラメータ」 「システム管理」>「Configパラメータ」 「システム管理」>「GuardDutyパラメータ」 「通知先管理」>「メールアドレス」 「通知先管理」>「MS Teams」 「AWS認証情報管理」>「インフラ管理者」
100,006	WebサーバへPlaybook実行	9	インフラ管理者	<ul style="list-style-type: none"> 「基盤管理」>「共通パラメータ」 「システム管理」>「AutoScaleパラメータ」 「システム管理」>「Bastionパラメータ」 「代入値管理」>「Webサーバ」(自動登録)

V.Conductor / 2.クラス一覧(3/4)

削除用Conductorクラス一覧①

【凡例】「メニューグループ名」>「メニュー名」

ID	Conductor名称	実行順序	実行ユーザー名	参照メニュー
100,010	AWS管理者基盤 / 削除	8	1stモデル管理者	<ul style="list-style-type: none"> 「基盤/シナリオ」>「AWS管理者基盤シナリオ」 「基盤管理」>「共通パラメータ」 「通知先管理」>「MS Teams」 「AWS認証情報管理」>「1stモデル管理者」
100,015	AWS管理者(ITAユーザー,IAMユーザー)/ 削除	7	1stモデル管理者	<ul style="list-style-type: none"> 「ユーザー/シナリオ」>「AWS管理者シナリオ」 「ユーザーリスト管理」>「AWS管理者リスト」 「AWS認証情報管理」>「1st管理者」
100,011	インフラユーザー基盤 / 削除	6	AWS管理者	<ul style="list-style-type: none"> 「基盤/シナリオ」>「インフラユーザー基盤シナリオ」 「基盤管理」>「共通パラメータ」 「通知先管理」>「MS Teams」 「AWS認証情報管理」>「AWS管理者」
100,016	インフラ管理者(ITAユーザー,IAMユーザー) / 削除	5	AWS管理者	<ul style="list-style-type: none"> 「ユーザー/シナリオ」>「インフラ管理者シナリオ」 「ユーザーリスト管理」>「インフラ管理者リスト」 「AWS認証情報管理」>「AWS管理者」
100,017	インフラメンバー(ITAユーザー,IAMユーザー) / 削除	4	AWS管理者	<ul style="list-style-type: none"> 「ユーザー/シナリオ」>「インフラメンバーシナリオ」 「ユーザーリスト管理」>「インフラメンバーリスト」 「AWS認証情報管理」>「AWS管理者」

削除用Conductorクラス一覧②

【凡例】「メニューグループ名」>「メニュー名」

ID	Conductor名称	実行順序	実行ユーザー名	参照メニュー
100,012	CloudFormationロール / 削除	3	AWS管理者	<ul style="list-style-type: none"> ・「基盤管理」>「共通パラメータ」 ・「システム/シナリオ」>「CloudFormationロール」 ・「通知先管理」>「MS Teams」 ・「AWS認証情報管理」>「AWS管理者」
100,013	オートスケールWebシステム / 削除	2	インフラ管理者	<ul style="list-style-type: none"> ・「基盤管理」>「共通パラメータ」 ・「システム/シナリオ」>「オートスケールWebシステム」 ・「通知先管理」>「MS Teams」 ・「AWS認証情報管理」>「インフラ管理者」
100,014	セキュリティ付帯機能 / 削除	1	インフラ管理者	<ul style="list-style-type: none"> ・「基盤管理」>「共通パラメータ」 ・「システム/シナリオ」>「セキュリティ付帯機能」 ・「通知先管理」>「MS Teams」 ・「AWS認証情報管理」>「インフラ管理者」



Exastro